

SPARC Enterprise T5440 サーバ プロダクトノート

オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、オラクル社および富士通株式会社の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者からオラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、オラクル社および / またはその関連会社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Oracle and/or its affiliates and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関してオラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限り、このような契約で明示的に規定された保証を除き、オラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われたいものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、オラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のものも第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われたいものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. SPARC Enterprise T5440 サーバに関する新情報 1

SPARC Enterprise T5440 サーバに関する重要な新情報 2

既知の問題に関する新情報 2

ハードウェアおよび機器に関する問題 2

Solaris OS に関する問題 2

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題 3

Oracle VM Server for SPARC に関する問題 3

マニュアルの正誤情報に関する新情報 3

2. SPARC Enterprise T5440 サーバに関する重要な情報 5

DVD ドライブ / ディスクの使用について 5

サポートされる Solaris OS およびシステムファームウェアのバージョン 6

システムファームウェアのアップデート 7

Microsoft Windows 7 および Internet Explorer 8 のサポート 7

システムファームウェア 7.2.8 における変更および追加機能 8

ホストコンソールターゲットの変更 8

ファームウェアアップデート時のプロトコルの追加 8

プレインストールされるソフトウェア 9

論理ドメイン	10
サポートされている Sun Explorer ユーティリティーのバージョン	11
パッチ情報	11
▼ パッチをインストールする	12
Solaris 10 8/07 OS の必須パッチ情報	12
Solaris 10 5/08 OS の必須パッチ情報	13
Solaris 10 10/08 OS の必須パッチ情報	13
Solaris 10 8/07 OS と必須パッチのインストール	13
オプションカード用のパッチ	15
Solaris 10 5/08 リカバリ用 DVD	16
留意点および制限事項	17
暗号化処理機能	17
保守要求 LED に関する留意点	17
ハードウェア RAID 機能	18
CMP/ メモリーモジュールの増設および縮退	18
CMP/ メモリーモジュール故障時の留意点	18
ケーブルマネージメントアーム	19
SSD ストレージ	19
ブートデバイスとしての SSD の使用	20
SSD のキャッシュ設定	20
SSD の使用可能期間	20
SSD の予防交換監視機能	20
RFID タグ	21
論理ドメインで Solaris OS を実行する場合の動作上の変更点	22
制御ドメインを停止またはリブートした場合の結果	22
プロセッサ ID に関する留意点	23
200V 電源を使用する場合の留意点	23
Solaris 11 OS を使用する場合の留意点	24

3. 既知の問題 25

ハードウェアおよび機器に関する問題 25

Solaris OS に関する問題 29

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題 31

Oracle VM Server for SPARC に関する問題 36

4. マニュアルの正誤情報 37

『SPARC Enterprise T5440 サーバ はじめにお読みください』 37

『SPARC Enterprise T5440 サーバ サービスマニュアル』 38

『SPARC Enterprise T5440 サーバ アドミニストレーションガイド』 38

『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』 39

『Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』 39

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』 40

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』 42

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』 43

A. 修正済みの問題 45

ハードウェアおよび機器に関する問題 45

Solaris OS に関する問題 46

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題 50

システムファームウェア 7.4.4.f 以降で修正済みの問題 51

システムファームウェア 7.4.2 以降で修正済みの問題 52

システムファームウェア 7.4.0.b 以降で修正済みの問題 53

システムファームウェア 7.2.11 以降で修正済みの問題 54

システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済みの問題 57

システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みの問題 59

システムファームウェア 7.2.8 以降で修正済みの問題 65

システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みの問題 67

システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題 71

システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済みの問題 78

B. 修正予定がない軽微な事象 85

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する事象 85

はじめに

本書では、SPARC Enterprise T5440 サーバに関する重要な情報、既知の問題、およびマニュアルの正誤情報について最新の情報を説明します。

注 - 本書に記載されている内容は、随時、最新の情報に更新されます。以下のウェブサイトにて最新版の有無を確認のうえ、SPARC Enterprise T5440 サーバをご使用ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparcenterprise/manual/>

マニュアルのダウンロード

SPARC Enterprise T5440 サーバのマニュアルは、以下のウェブサイトから参照できます。

- 日本語サイト

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparcenterprise/manual/>

- グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

注 - 本書に記載されている情報は、SPARC Enterprise T5440 サーバのほかのマニュアルに記載されている情報よりも優先されます。

マニュアルへのフィードバック

本書に関するご意見、ご要望がございましたら、マニュアル番号、マニュアル名称および具体的な内容を以下のウェブサイトからご連絡ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparcenterprise/manual/>

第 1 章

SPARC Enterprise T5440 サーバに関する新情報

この章では、前版の『SPARC Enterprise T5440 サーバプロダクトノート』では記載されていなかった、SPARC Enterprise T5440 サーバに関する新しい情報について説明します。

- **SPARC Enterprise T5440 サーバに関する重要な新情報**
- **既知の問題に関する新情報** -- 前版の公開後に特定された技術的な問題について説明します。
- **マニュアルの正誤情報に関する新情報** -- 前版の公開後に特定された正誤情報について説明します。

なお、前版で公開された情報は、次の各章に記載されています。

- **第 2 章**では、本体装置にプレインストールされているソフトウェアの種類、サポートの受け方、およびシステム構成の判定方法に関する重要な情報について説明します。
- **第 3 章**では、ハードウェア、ソフトウェア、およびファームウェアの問題とその回避方法に関する重要な情報について説明します。
- **第 4 章**では、発行済みのシステム関連文書の追加訂正情報について説明します。
- **付録 A** では、修正済みの技術的な問題について説明します。
- **付録 B** では、修正予定のない軽微な事象について説明します。

SPARC Enterprise T5440 サーバに関する重要な新情報

本書の公開時点で新たにサポートされる機能はありません。

既知の問題に関する新情報

ここでは、前版のプロダクトノート公開以降に検出された技術的な問題について説明します。

ハードウェアおよび機器に関する問題

前版のプロダクトノート公開以降に検出された技術的な問題はありません。

Solaris OS に関する問題

前版のプロダクトノート公開以降に検出された技術的な問題はありません。

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題

表 1-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題

CR ID	説明	回避方法
16839239	ILOM 時刻が NTP サーバと時刻同期している場合に、ILOM のリセット、または電源コードの抜き差しを実施すると、Solaris OS の時刻がずれてしまうことがあります。	なし。 ILOM のリセット（ファームウェアのアップデートを含む）、または電源コードの抜き差しを実施した際には、必ずシングルユーザーモードにて、Solaris OS の時刻を確認してください。時刻がずれている場合は手動で時刻を再設定してください。

Oracle VM Server for SPARC に関する問題

前版のプロダクトノート公開以降に検出された技術的な問題はありません。

マニュアルの正誤情報に関する新情報

前版のプロダクトノート公開以降に検出された正誤情報はあります。

第 2 章

SPARC Enterprise T5440 サーバに関する重要な情報

この章では、SPARC Enterprise T5440 サーバに関する重要な情報について説明します。

- 「DVD ドライブ / ディスクの使用について」 (P. 5)
- 「サポートされる Solaris OS およびシステムファームウェアのバージョン」 (P. 6)
- 「システムファームウェアのアップデート」 (P. 7)
- 「プレインストールされるソフトウェア」 (P. 9)
- 「パッチ情報」 (P. 11)
- 「Solaris 10 5/08 リカバリ用 DVD」 (P. 16)
- 「留意点および制限事項」 (P. 17)

DVD ドライブ / ディスクの使用について

本サーバに搭載されている DVD ドライブを使用する際の注意事項があります。次のサイトから『SPARC Enterprise での DVD ドライブ / ディスクの使用について』を参照してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparcenterprise/manual/>

サポートされる Solaris OS およびシステムファームウェアのバージョン

表 2-1 は、SPARC Enterprise T5440 サーバでサポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム（以降、Solaris OS）とシステムファームウェアのバージョンを示しています。

サーバには、Solaris OS、パッチ、およびファームウェアがプレインストールされていますが、同じバージョンまたはサポートされている別のバージョンをインストールできます。一部のバージョンの Solaris OS には、必須パッチのインストールが必要であることに注意してください。必要なパッチの情報については、「[パッチ情報](#)」(P. 11) を参照してください。

注 - Solaris OS をインストールすると、工場出荷時にプレインストールされたその他のソフトウェアにアクセスできなくなります。プレインストールされているソフトウェアの詳細については「[プレインストールされるソフトウェア](#)」(P. 9) を参照してください。

表 2-1 サポートされる Solaris OS およびファームウェアのバージョン

サポートされるバージョン	
Solaris OS	Solaris 10 8/07 OS およびパッチ – サポートされる最小バージョン
	Solaris 10 5/08 OS およびパッチ
	Solaris 10 10/08 OS およびパッチ
	Solaris 10 5/09 OS 以降
	Solaris 11 OS – サポートされる最新バージョン
ファームウェア	システムファームウェア 7.1.8.a – サポートされる最小バージョン
	システムファームウェア 7.4.5 – サポートされる最新バージョン（2013 年 7 月時点）

1.6 GHz プロセッサが搭載されているシステムでは、最小レベルのシステムファームウェア 7.2.2.e と、Solaris 10 8/07 OS に必須パッチを適用したものがが必要です。

システムファームウェアのアップデート

システムファームウェアによって、ホストおよびサービスプロセッサのさまざまな側面が制御されます。システムファームウェアは、次に示す個々のファームウェアコンポーネントから構成されています。

- Integrated Lights Out Manager (ILOM) ファームウェア
- OpenBoot PROM (OBP) ファームウェア
- Power-On Self-Test (POST) ファームウェア
- Hypervisor ファームウェア
- VBSC ファームウェア

システムファームウェアのアップデートは、パッチリリースとして提供されます。入手方法については、次のウェブサイトを参照してください。

<https://updatesite.jp.fujitsu.com/unix/jp/download/firmware/>

システムファームウェアをアップデートすると、個々のファームウェアコンポーネントもすべてアップデートされます。ファームウェアコンポーネントを個別にアップデートすることはできません。本体装置のファームウェアアップデートの詳細については、『SPARC Enterprise T5440 サーバインストール・セットアップガイド』を参照してください。

Microsoft Windows 7 および Internet Explorer 8 のサポート

システムファームウェア 7.2.7 の時点で、ILOM のリモートコンソール機能は Microsoft Windows 7 および Internet Explorer 8 をサポートしています。

システムファームウェア 7.2.8 における変更および追加機能

ホストコンソールターゲットの変更

システムファームウェア 7.2.8 以降、ILOM におけるホストコンソールターゲットが、/HOST/console に変更されました。ただし、従来のターゲット /SP/console を直接指定することにより、従来どおり、ホストコンソールを取得できます。また配下のプロパティも、/SP/console 時と同様に使用できます。

システムファームウェア 7.2.8 以降におけるホストコンソールの取得方法は、以下のとおりです。

```
-> show /HOST/console

/HOST/console
  Targets:
    history

  Properties:
    escapechars = #.
    line_count = 0
    pause_count = 0
    start_from = end

  Commands:
    cd
    show
    start
    stop

-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y

Serial console started.  To stop, type #.

XXXXXX console login:
```

ファームウェアアップデート時のプロトコルの追加

システムファームウェア 7.2.8 以降、ILOM CLI インタフェースにおけるファームウェアアップデートで利用できるプロトコルが追加されました。従来の tftp に加えて、ftp, sftp, scp が利用可能です。

scp プロトコル実施例：

```
-> load -source scp://xxxxx:xxxxx@XXX.XXX.XXX.XXX//mnt1/Firmware_Update/Huron/
7.2.8/
/Sun_System_Firmware-7_2_8-SPARC_Enterprise_T5120+T5220.pkg
```

NOTE: An upgrade takes several minutes to complete. ILOM will enter a special mode to load new firmware. No other tasks can be performed in ILOM until the firmware upgrade is complete and ILOM is reset.

```
Are you sure you want to load the specified file (y/n)? y
Do you want to preserve the configuration (y/n)? y
.....
.....
```

Firmware update is complete.
ILOM will now be restarted with the new firmware.

プレインストールされるソフトウェア

ここでは、サーバにプレインストールされるソフトウェアについて説明します。プレインストールされたソフトウェアはすぐに使用できます。

表 2-2 プレインストールされるソフトウェア

ソフトウェア	場所	機能
Solaris 10 5/09	パッチ（「 パッチ情報 」(P. 11) を参照）がある root ディスクのスライス 0（および ABE のスライス 3）	オペレーティングシステム
Sun Studio 1.2 U1	/opt/sunstudio12.1	C、C++、および Fortran のコンパイラー
LDoms Manager 1.3	/opt/SUNWldm/	論理ドメインの管理
LDoms MIB	/opt/SUNWldmib	論理ドメイン管理情報ベース
CMT ツール 1.2	/opt/sunstudio12.1/bin /opt/sunstudio12.1/prod/bin	Sun Studio Developer のツール
SPARC システム向け Sun Code Generator 4.3.2	/opt/gcc および /opt/SUNW0scgfss	SPARC システム向け GCC コンパイラー

注 - Solaris OS は、通常操作のために root ディスクのスライス 0 にブレインストールされているほか、代替ブート環境（ABE）を提供するため Live Upgrade ソフトウェアとともにスライス 3 にもブレインストールされています。ABE により、Solaris OS のアップグレードやシステム保守作業の実行がパフォーマンスの低下なしに可能となります。ルートパーティション（Solaris OS、EIS、およびアプリケーションを含む）と同一の（ブート可能な）コピーが、ABE としてスライス 3 にインストールされています。

論理ドメイン

論理ドメイン（Logical Domains）とは、SPARC プラットフォーム上で動作する仮想ハードウェア環境です。この機能を使用すると、1 つのプラットフォームを複数の仮想サーバ環境に分割し、それぞれで独立したオペレーティングシステムを実行することが可能になります。サーバの使用率、効率性、および投資回収率が向上するとともに、サーバの設置面積が小さくなります。

Oracle VM Server for SPARC（旧 Logical Domains Manager または LDoms Manager）ソフトウェアは、論理ドメインの作成と管理および論理ドメインと物理リソースの対応付けを行います。

注 - Logical Domains MIB は、使用する前に設定する必要があります。設定方法については、Logical Domains MIB インストールディレクトリ /opt/ldoms_mib にある README ファイルを参照してください。

Oracle VM Server for SPARC の詳細については、次のウェブサイトを参照してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparcenterprise/download/software/ldoms/>

サポートされている Sun Explorer ユーティリティーのバージョン

SPARC Enterprise T5440 サーバは、Sun Explorer 5.10 以降のデータ収集ユーティリティーではサポートされますが、これより前のリリースのユーティリティーではサポートされません。プレインストールされた Java ES パッケージから Sun Cluster または Sun Net Connect ソフトウェアをインストールすると、前のバージョンのユーティリティーがシステムに自動的にインストールされます。Java ES ソフトウェアのいずれかをインストールしたあとに、次のように入力して、使用しているシステムに前のバージョンの Sun Explorer 製品がインストールされていないかどうかを確認してください。

```
# pkginfo -l SUNWexplo
```

前のバージョンが存在する場合は、それをアンインストールして version 5.10 以降をインストールしてください。Sun Explorer ユーティリティーの入手方法は、当社技術員にお問い合わせください。

パッチ情報

パッチの入手方法については、次のウェブサイトを参照してください。

<http://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/>

購入先に問い合わせるサポートを受ける前に、すべての必須パッチがサーバにインストールされていることを確認してください。

パッチが存在するかどうかを確認するには、「[パッチをインストールする](#)」(P. 12) を参照してください。

注 - ご使用のサーバにプレインストールまたはプレロードされたソフトウェアのバージョンによっては、必須パッチが含まれていない場合があります。これらのパッチがサーバに存在しない場合は、「[パッチをインストールする](#)」(P. 12) の説明に従って、パッチを入手してください。

▼ パッチをインストールする

1. 必要なパッチがシステムにインストールされているかどうかを確認します。

たとえば、showrev コマンドを使用して、パッチ番号ごとに次のように入力します。

```
# showrev -p | grep "Patch: 123456"
```

- 照会したパッチのパッチ情報が示され、ダッシュ拡張子（最後の 2 桁）が必要なバージョンと一致するか、それより新しいバージョンを示している場合は、適切なパッチがシステムにすでにインストールされています。それ以上の措置は不要です。

たとえば、パッチ 123456-16 以降がインストールされていれば、このパッチの必要なバージョンはシステムに存在しています。

- 照会したパッチのパッチ情報が示されない場合、またはダッシュ拡張子が必要なバージョンより前のバージョンを示している場合は、[ステップ 2](#)に進みます。

たとえば、パッチ 123456 のどのバージョンもインストールされていない場合、またはダッシュ拡張子が -15 以前のバージョンがインストールされている場合は、新しいパッチをインストールする必要があります。

2. 必要なパッチを入手します。

パッチの入手方法については、上述のウェブサイトを参照してください。

3. 各パッチの README ファイルで説明されているインストール方法に従います。

Solaris 10 8/07 OS の必須パッチ情報

Solaris 10 8/07 OS がインストールされているシステムには、次のパッチを必ず適用してください。

- 124235-02 以降
- 125369-13
- 125416-06
- 125476-02
- 126434-05
- 127111-08 以降
- 119254-51 以降
- 125891-01
- 127755-01
- 127127-11

- 137111-03 以降
- 137291-01 以降
- 138048-05 以降
- 138312-01

注 - 正しいインストール手順については、「[Solaris 10 8/07 OS と必須パッチのインストール](#)」(P. 13) を参照してください。

Solaris 10 5/08 OS の必須パッチ情報

Solaris 10 5/08 OS がインストールされているシステムには、次のパッチを必ず適用してください。

- 137111-03 以降
- 137291-01 以降
- 138048-05 以降
- 138312-01
- 119254-58
- 138866-01
- 137137-09
- 138283-05
- 138888-01

Solaris 10 10/08 OS の必須パッチ情報

以下のパッチは Solaris 10 10/08 OS 用の必須パッチです。

- 138888-01

Solaris 10 8/07 OS と必須パッチのインストール

Solaris 10 8/07 OS をインストールするには、正しいパッチを適用したインストールイメージを作成する必要があります。次の手順に従ってシステムに Solaris 10 8/07 OS をインストールします。

この手順を実行する前に、「[Solaris 10 8/07 OS の必須パッチ情報](#)」(P. 12) に記載されているすべてのパッチをダウンロードする必要があります。

1. ネットワークインストールサーバからアクセス可能な場所に以下のパッチをコピーします。

- 119254-51 以降
- 124235-02 以降
- 125369-13
- 125416-06
- 125476-02
- 125891-01
- 126434-05
- 127111-08 以降
- 127755-01
- 127127-11
- 138312-01

2. `patchadd` コマンドを使用して、ネットワークインストールサーバの `miniroot` ディレクトリに以下のパッチをインストールします。

- 119254-51 以降
- 125369-13
- 125476-02
- 125891-01
- 127111-08 以降
- 127755-01
- 127127-11
- 138312-01

次に例を示します。

```
# patchadd -C ./Solaris_10/Tools/Boot /net/downloads/T5440_patches/125369*
# patchadd -C ./Solaris_10/Tools/Boot /net/downloads/T5440_patches/125476*
# patchadd -C ./Solaris_10/Tools/Boot /net/downloads/T5440_patches/127111*
```

3. ネットワークインストールサーバの `Solaris_10/Patches` ディレクトリに以下のパッチをコピーします。

- 119254-51 以降
- 124235-02 以降
- 125369-13
- 125416-06
- 125476-02
- 125891-01

- 126434-05
- 127111-08 以降
- 127755-01
- 127127-11
- 138312-01

次に例を示します。

```
# cp -R /net/downloads/T5440_patches/124235* ./Solaris_10/Patches
# cp -R /net/downloads/T5440_patches/125369* ./Solaris_10/Patches
...
```

4. このパッチ適用済みバージョンの Solaris 10 8/07 OS を使用してネットワークインストールを実行します。
5. SPARC Enterprise T5440 サーバ上で、patchadd コマンドを使用して残りのパッチをインストールします。
 - 137111-03 以降
 - 137291-01 以降
 - 138048-05 以降

関連情報

- 「パッチをインストールする」 (P. 12)
- 「Solaris 10 8/07 OS の必須パッチ情報」 (P. 12)

オプションカード用のパッチ

サーバにオプションカードを追加する場合は、それぞれのカードに関するマニュアルおよび README ファイルを参照して、追加のパッチが必要かどうかを確認してください。

Solaris 10 5/08 リカバリ用 DVD

Solaris OS リカバリ用 DVD (『Solaris 10 5/08 OS Recovery DVD for SPARC Enterprise T5440 Server』) は、サーバに同梱されています。

この DVD は、Solaris OS を再インストールした場合のリカバリ操作に使用することを目的としています。

注 - この DVD にある Solaris 10 5/08 イメージには、パッチが適用された mini-root (パッチ ID 138312-01) が含まれており、この mini-root を使って SPARC Enterprise T5440 サーバを DVD からインストールまたはブートできます。DVD からの Solaris 10 5/08 の再インストールには、この DVD を使用する必要があります。標準の Solaris 10 5/08 リリースは、DVD ドライブからブートしません。

留意点および制限事項

ここでは、このリリースの SPARC Enterprise T5440 サーバにおける留意点および制限事項について説明します。

- 「暗号化処理機能」 (P. 17)
- 「保守要求 LED に関する留意点」 (P. 17)
- 「ハードウェア RAID 機能」 (P. 18)
- 「CMP/ メモリーモジュールの増設および縮退」 (P. 18)
- 「CMP/ メモリーモジュール故障時の留意点」 (P. 18)
- 「ケーブルマネジメントアーム」 (P. 19)
- 「SSD ストレージ」 (P. 19)
- 「RFID タグ」 (P. 21)
- 「論理ドメインで Solaris OS を実行する場合の動作上の変更点」 (P. 22)
- 「プロセッサ ID に関する留意点」 (P. 23)
- 「200V 電源を使用する場合の留意点」 (P. 23)
- 「Solaris 11 OS を使用する場合の留意点」 (P. 24)

暗号化処理機能

暗号化処理機能を使用する場合は、Solaris 10 9/10 以降をインストールしてください。

Solaris 10 9/10 より前のバージョンで使用する場合は、パッチ 142909-17 以降を適用してください。

保守要求 LED に関する留意点

装置全体、ハードドライブ、FAN、PSU 等の保守要求 LED は、間欠故障などの原因によっては、点灯しない場合があります。

そのため、保守 LED だけでなく、Solaris OS の出力メッセージを確認のうえ、故障を判断してください。

ハードウェア RAID 機能

SPARC Enterprise T5440 サーバには標準でハードウェアによる RAID 機能が搭載されていますが、弊社ではデータ保護や信頼性、保守性の観点からサポートしておりません。

内蔵ディスクで RAID 機能を使用する場合には、以下のソフトウェアによる RAID 機能をご利用いただきますようお願いいたします。

- PRIMECLUSTER GDS
- Solaris ボリュームマネージャー（Solaris OS に添付）
- VERITAS Storage Foundation

CMP/ メモリーモジュールの増設および縮退

CMP/ メモリーモジュールの増設および減設は、サポートしていません。

ILOM の `ioreconfigure` パラメータを `false` 以外に変更しないでください。変更すると、入出力パスが再構成され、Solaris OS が起動できなくなる場合があります。
`ioreconfigure` については、『Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』を参照してください。

CMP/ メモリーモジュールが故障した場合は、CMP/ メモリーモジュールの交換が必要となります。故障した CMP/ メモリーモジュールを縮退して、運用を継続することはできません。

CMP/ メモリーモジュール故障時の留意点

本製品では、各 CMP に以下の I/O デバイスが接続されています。

表 2-3 CMP に接続されている I/O デバイス

CMP 番号	2CMP 構成	4CMP 構成
CMP0	ボード上のディスクドライブ	<-
	ボード上の USB ポート	<-
	ボード上の DVD ドライブ	<-
	PCIe 0-3	PCIe 0,1

表 2-3 CMP に接続されている I/O デバイス（続き）

CMP 番号	2CMP 構成	4CMP 構成
CMP1	ボード上の 1 ギガビットまたは 10 ギガビットネットワーク XAUI PCIe 4-7	<- <- PCIe 4,5
CMP2	----	PCIe 2,3
CMP3	----	PCIe 6,7

一つの CMP が完全に故障した場合には、対象 CMP に接続されている I/O デバイスが使用できなくなります。

ケーブルマネージメントアーム

SPARC Enterprise T5440 サーバでケーブルマネージメントアーム（CMA）を使用する際には下記条件があります。

- “PCIe スロットの構成ガイドライン”に従って、PCI カード/XAUI カードの搭載スロットを決定してください。

“PCIe スロットの構成ガイドライン”は、『SPARC Enterprise T5440 サーバサービスマニュアル』、第 4 章「顧客交換可能ユニット（CRU）の保守」の「PCIe カードの保守」に記載されています。

決定したカードの種類（PCI ボックス接続カード/光ケーブル使用のカード/SCSI カード/XVR カード/SAS カード）と搭載スロットによって下記条件があります。

- SLOT0, 1, 2, 3, 4 で使用する場合
各ケーブルは、CMA に収容せず、CMA 上のスペースを利用して配線してください。ただし、PCI ボックス接続カードを搭載する場合は、CMA を使用しないでください。
- SLOT5, 6, 7 で使用する場合
CMA を使用しないでください。
- CMA に収容可能なケーブルの目安は、本体 AC ケーブル× 4 本、RJ45 ケーブル× 22 本です。

SSD ストレージ

SPARC Enterprise T5440 サーバでは、内蔵ストレージ用に 32GB SATA SSD を使用できます。SSD は、ホットプラグが可能であり、2.5 インチ型 SAS ハードドライブの代わりに使用できるほか、これと組み合わせて使用することもできます。現在の 2.5 インチ型ドライブトレイは、SSD 装置と互換性があります。

注 - T5440 サーバには最大 3 台の 32GB SATA SSD を搭載できます。システムディスクを外付けのストレージ装置で使用する場合は、最大 4 台の SSD を搭載できます。

SSD の取り付けと取り外しについては、『SPARC Enterprise T5440 サーバ サービスマニュアル』に記載されている「ハードドライブの保守」の手順に従ってください。これらの手順は、ディスクベースのハードドライブと SSD のどちらにも適用できます。

ブートデバイスとしての SSD の使用

SSD をブートデバイスとして使用することはできません。

SSD のキャッシュ設定

SSD は初期状態で、内部キャッシュを有効とする設定となっています。キャッシュを有効とした状態で使用した場合、停電でデータが失われる可能性があります。

内部キャッシュは、Solaris OS の起動後、`format -e` コマンドのサブコマンド "cache" メニューを使用することにより無効に設定できます。なお、この設定は Solaris OS の再起動時には保存されません。

データを確実に保証するためには、無停電電源装置（UPS）を使用することを推奨します。

SSD の使用可能期間

SSD は 5 年間を目安に設計しております。使用頻度など、お客様の使用環境により、保守対応期間（5 年）内に交換が必要となる場合があります。

SSD の予防交換監視機能

特定のバージョン以降の ESF（Enhanced Support Facility）では、SSD の予防監視機能がサポートされます。

サポートされるソフトウェアのバージョンは次のとおりです。

- サポートされるソフトウェアのバージョン

ESF（Enhanced Support Facility）3.0 ～ 3.1 および パッチ 914604-08 以降

RFID タグ

2010 年 8 月以降に出荷される本体装置には、順次、RFID タグが添付されます。一時的に RFID タグが添付される装置と添付されない装置が混在する可能性があります。
図 2-1 は、RFID タグの位置を示しています。

図 2-1 SPARC Enterprise T5440 サーバの外観（前面図）

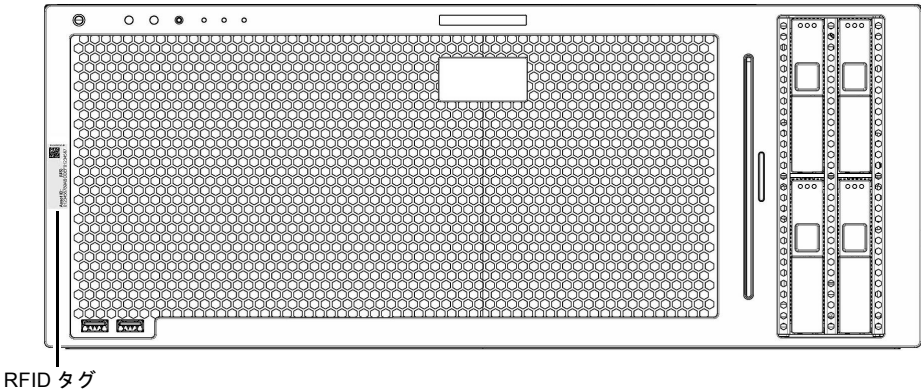
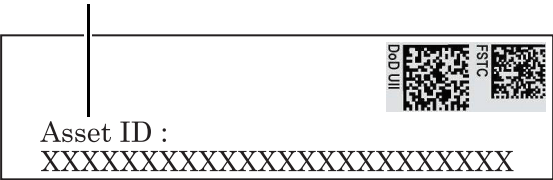


図 2-2 は、RFID タグの外観図を示しています。

図 2-2 RFID タグの外観図

RFID タグに書き込まれた Asset ID



論理ドメインで Solaris OS を実行する場合の動作上の変更点

ここでは、Logical Domains Manager で構成を作成した場合に、Solaris OS の使用に関して発生する動作の変更について説明します。

注 - Solaris OS が起動すると、OpenBoot PROM ファームウェアはメモリーから削除されるため、使用できません。Solaris OS の ok プロンプトに到達するには、ドメインを停止する必要があります。ドメインを停止するには、Solaris OS の halt コマンドを使用します。

制御ドメインを停止またはリブートした場合の結果

次の表に、制御（プライマリ）ドメインの停止またはリブートによって予期される動作を示します。

表 2-4 制御（プライマリ）ドメインの停止またはリブートによって予期される動作		
コマンド	ほかのドメイン は構成されてい るか	動作
halt	いいえ	ホストの電源がオフになります。SP で電源がオンになるまでオフのままです。
	はい	変数 auto-boot?=true の場合、リセットおよびブートします。変数 auto-boot?=false の場合、ok プロンプトでリセットおよび停止します。
reboot	いいえ	ホストをリブートします。電源はオフになりません。
	はい	ホストをリブートします。電源はオフになりません。
shutdown -i 5	いいえ	ホストの電源がオフになります。SP で電源がオンになるまでオフのままです。
	はい	リセットおよびリブートします。

プロセッサ ID に関する留意点

プラットフォームが異なる場合、および機種が同じでプラットフォームが異なる場合は、構成が同じでも異なるプロセッサ ID になることがあります。たとえば、UltraSPARC T1 CPU ベースのプラットフォームの場合、プロセッサ ID は 0 で始まりますが、UltraSPARC T2 Plus CPU ベースのプラットフォームを含むほかのプラットフォームの場合、0 のプロセッサ ID がないことがあります。Solaris OS の `psrinfo` コマンドの出力は、UltraSPARC T2 Plus プロセッサベースのプラットフォームの場合、次のようになります。

8	on-line	since 09/18/2007 21:26:25
9	on-line	since 09/18/2007 21:26:30
16	on-line	since 09/18/2007 21:26:30
17	on-line	since 09/18/2007 21:26:30

仮想マシン管理プログラムにより複数のゲストドメインを実行しているプラットフォームの場合、各ゲストドメインにエクスポートされるプロセッサ ID は、ほとんど抽象化されたものとして表されることがあります。各ゲストドメイン内では、ソフトウェアから見える各プロセッサ ID は一意の整数値です。

同じ物理マシン上の異なるゲストドメイン内で動作しているソフトウェアから見た仮想プロセッサ ID のセットは、同じ場合と、ゲストドメインごとに異なる場合があります。ドメイン化が有効な場合、仮想プロセッサ ID と物理プロセッサ ID が同じになることはありません。仮想 CPU 番号と物理 CPU 番号のマッピングの詳細については、最新の『Oracle VM Server for SPARC 管理ガイド』を参照してください。

プロセッサ ID は、ソフトウェアが動作しているドメイン内で一意の整数値です。整数値は、`processorid_t` 型に適合します。`p_online(2)` の `man page` も参照してください。

200V 電源を使用する場合の留意点

ロック機能有プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に 15A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、15A の過電流保護を行ってください。ロック機能有プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15 などを指します。

ご使用のサーバの電源コードタイプについては、当社技術員にお問い合わせください。

Solaris 11 OS を使用する場合の留意点

Solaris OS 起動時に、ILOM へのログイン/ログアウトを意味する Open/Close session のメッセージが ILOM のイベントログに複数回出力されます。

このメッセージは、Solaris OS 上の SMF サービス `ilomconfig-interconnect` が、起動時に内部バスを利用して ILOM にアクセスするために出力されます。このため、このメッセージは無視できます。

出力例：

```
3192  Mon Nov  7 15:36:43 2011  Audit      Log      minor
      host_root : Close Session : object = "/SP/session/type" : value = "shell"
      : success
3191  Mon Nov  7 15:36:42 2011  Audit Log minor
      root : Open Session : object = "/SP/session/type" : value = "shell" :
      success
      :
```

第 3 章

既知の問題

この章では、SPARC Enterprise T5440 サーバの既知の問題について説明します。

- 「ハードウェアおよび機器に関する問題」 (P. 25)
- 「Solaris OS に関する問題」 (P. 29)
- 「ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題」 (P. 31)
- 「Oracle VM Server for SPARC に関する問題」 (P. 36)

注 - Solaris OS やシステムファームウェアの最新バージョンなどで修正済みの問題については、[付録 A](#) を参照してください。サポートされる最新バージョンについては、「[サポートされる Solaris OS およびシステムファームウェアのバージョン](#)」 (P. 6) を参照してください。

ハードウェアおよび機器に関する問題

ここでは、このリリースの SPARC Enterprise T5440 サーバにおいて、ハードウェアに存在する既知の問題点について説明します。

表 3-1 ハードウェアおよび機器に関する問題

CR ID	説明	回避方法
6823448	SSD の OK/ 動作状態 LED は、通常のハードドライブ (HDD) の LED と異なる動作をします。たとえば、通常の HDD では Solaris OS 動作中に LED が点灯しますが、SSD では消灯します。ただし、SSD へのアクセス時には点滅します。	なし。

表 3-1 ハードウェアおよび機器に関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6726637	3 つまたは 4 つの USB サムドライブが外部 USB ポートに接続されていて、USB サムドライブ上の負荷も含めてシステムの I/O 負荷が高い場合は、数時間後（通常 10 時間を超える）にシステムパニックが発生する可能性があります。	I/O 負荷が高い状況では、システムに接続する USB サムドライブは 2 つまでにしてください。
6706976	CD/DVD メディアの書込み時に、CD/DVD ドライブがサポートしている最大速度に達しない場合があります。 最大動作に達しない場合でも、CD/DVD メディアへの書込みに支障はありません。	そのまま使用してください。
6679425	PCIe スロット 4 および 7 とシャーシ背面パネルとの間隔が詰まっています。	PCIe カードを PCIe スロット 4 または 7 に取り付ける場合は、カードを傾けてシャーシ背面パネルの PCIe ラッチの爪を外してから、カードを垂直にしてマザーボードの PCIe スロットに挿入します。
6581309	XVR-300 を SPARC Enterprise T5xx0 シリーズのコンソールとして使用する場合は、パッチ 137111-01 以降を適用する必要があります。 このパッチが適用されていない状態では、XVR-300 をコンソールとして使用するよう OpenBoot PROM (OBP) 変数を変更したあとでも、コンソールの出力は Solaris OS の boot 中にデフォルトの ILOM 側に戻ります。	XVR-300 をコンソールとして使用するには、OpenBoot PROM 変数の変更を行う前に、Solaris OS にパッチ 137111-01 以上を適用してください。 また、Solaris OS のインストール（再インストールも含む）を行う際は、ILOM をコンソールとして利用するよう設定した状態でインストール作業およびパッチの適用を行ってください。 この時点では、GUI は使用できません。 パッチの適用後、OpenBoot PROM 変数を変更することにより、XVR-300 をコンソールとして使用できます。
なし	PCIe カードを PCIe スロット 7 に取り付ける場合、PCIe カードによっては外部ケーブル用に十分な空間がないことがあります。次の PCIe カードを PCIe スロット 7 に取り付けると、ケーブルマネージメントアーム (CMA) のリリースボタンが外部ケーブルやコネクタに干渉することがあります。 • XVR-300 フレームバッファカード • 外部 SCSI コネクタがあるすべての PCIe カード • 外部ファイバケーブルコネクタがあるすべての PCIe カード	次のいずれかを実行します。 • PCIe スロット 7 以外のスロットに、制限されているカードを取り付ける。 • ケーブルマネージメントアームを取り付けない。
なし	XAUI カードを搭載するとオンボードネットワークポートが無効になります。 詳細は、「XAUI カードを搭載するとオンボードネットワークポートが無効になる」(P. 27) を参照してください。	

表 3-1 ハードウェアおよび機器に関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
なし	システムが初期化されると、ファームウェアがロードされ、ホストメモリーの約 128MB から 352 MB が占有されます。パナーとその他のソフトウェアユーティリティーは、メモリー総量からファームウェアによって占有されたメモリー量を引いた残量を報告します。	パナーは、ファームウェアが使用している量より少ないメモリー量を報告するので、注意が必要です。
なし	停電後の復電時に RAID ボリュームが壊れる場合があります。	RAID は使用しないでください。

XAUI カードを搭載するとオンボードネットワークポートが無効になる

10GbE XFP XAUI Adapter Card（XAUI カード）をスロット 4 に搭載すると、オンボードネットワークポート 1（NET1）が無効になります。XAUI カードをスロット 5 に搭載すると、オンボードネットワークポート 0（NET 0）が無効になります。なお、各ポートに割り当てられるデバイス名は、以下に示す表を参照してください。

図 3-1 XAUI カードとオンボードネットワークポート

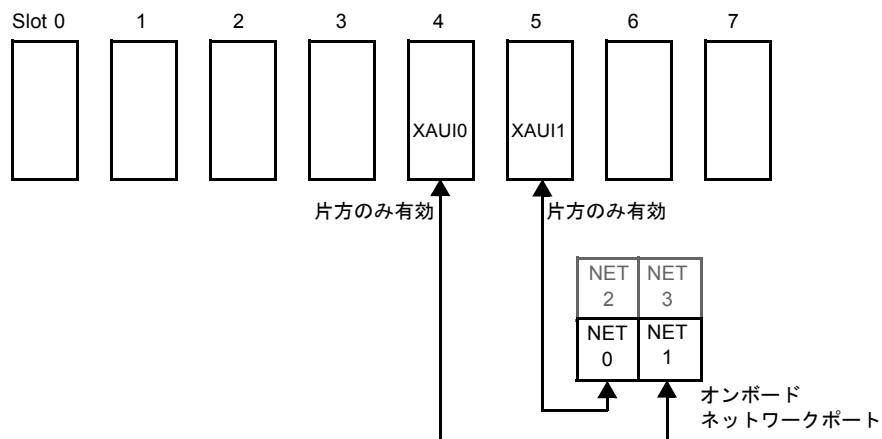


表 3-2 ネットワークポートとデバイス名

オンボードネットワーク	XAUI スロット	デバイス名
NET 0	XAUI 1	nxge0
NET 1	XAUI 0	nxge1

Solaris OS に関する問題

ここでは、このリリースの SPARC Enterprise T5440 サーバにおいて、Solaris OS に存在する既知の問題点について説明します。

表 3-3 Solaris OS に関する問題

CR ID	説明	回避方法
6950462	Emulex ドライバが、ドライバと HBA ファームウェアのレベルが合わないときに、自動的に Emulex HBA のファームウェアアップグレードを行います。これは、Emulex HBA がダイレクト I/O 機能を使って論理 I/O ドメインに割り当てられたときに、発生する場合があります。 注 - Emulex HBA のファームウェアアップグレードに割り込みが入ると、カードは永久的に破壊されます。いかなる Emulex HBA も、ダイレクト I/O 機能で論理 I/O ドメインに割り当てないでください。 本件は、オプションの SG-XPCIE2FC-EM8-Z、部品番号 371-4306 の 8Gigabit/Sec PCI-E Dual FC Host Adapter (Emulex LPe12002-S x8 PCI Express) に影響します。	Emulex ドライバのパッチ (Patch ID 145098-02) をダウンロードし、インストールしてください。
6748786	Solaris OS 稼働中に Fan、PSU を活性交換後に、prtdiag を実行すると全 environment status が "unknown" と表示されます。	<pre>picl を再起動後、数分以上待つから prtdiag コマンドを再実行してください。 # svcadm restart picl ここで数分待つ。 # prtdiag -v</pre>
6699494	まれな状況下で、リンクアグリゲーションを作成および削除するコマンドの繰り返しループに入って何回も実行されると、システムパニックが発生することがあります。	リンクアグリゲーションの追加、削除、および反復を何度も実行しないでください。
6627749	prtdiag コマンドで PCIe スロットに差したカードの "Bus Type" の項目が "PCIX" と表示されることがあります。	なし。 「prtdiag コマンドで PCIe スロットに差したカードの "Bus Type" の項目が "PCIX" と表示されることがある (CR 6627749) (P. 30) を参照してください。
なし	システムの停止に失敗することがあります。	boot 処理が完了しない状態で Shutdown を実行しないでください。boot 処理が完了するのを確認するか、十分な時間 (10 分以上) をおいてから shutdown 処理を開始してください。

prtdiag コマンドで PCIe スロットに差したカードの "Bus Type" の項目が "PCIX" と表示されることがある (CR 6627749)

```
# prtdiag -v
:
===== IO Devices =====
Slot +      Bus   Name +      Model
Status      Type  Path
-----
MB/PCIE6    PCIX  SUNW,emlxs-pci10df,fc20  LPe11002-S
^^^^^      ^^^^^
                /pci@700/pci@0/pci@c/SUNW,emlxs@0
MB/PCIE6    PCIX  SUNW,emlxs-pci10df,fc20  LPe11002-S
^^^^^      ^^^^^
                /pci@700/pci@0/pci@c/SUNW,emlxs@0,1
:
```

回避方法：なし

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題

ここでは、ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題について説明します。

表 3-4 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題

CR ID	説明	回避方法
7110871	"/SP/services/https weak_ciphers" を disabled から enabled に変更するとき、または、enabled から disabled に変更するとき、ILOM の Web サービスの再起動に失敗する場合があります。 この事象が発生すると ILOM の BUI に接続できなくなります。	なし。 この事象から復旧するには、ILOM をリセットしてください。
7046705	システム稼働中に間欠で、電源センサーが入力電源を再検知した内容のメッセージが、Solaris OS のシステムログ (/var/adm/messages) に出力されることがあります。このとき、ILOM のステータス確認コマンド (show faulty コマンド) は正常な状態を示しています。 事象発生時例： <pre>Jan 5 23:34:52 xxxxxxxx SC Alert: [ID 494714 daemon.alert] IPMI critical: ID = 116 : 01/05/2011 : 23:34:51 : Voltage : /PS1/AC_POK : State Deasserted Jan 5 23:34:57 xxxxxxxx SC Alert: [ID 210946 daemon.notice] IPMI minor: ID = 117 : 01/05/2011 : 23:34:57 : Voltage : /PS1/AC_POK : State Asserted</pre> show faulty コマンド例： <pre>-> show faulty Target Property Value -----+-----+----- -></pre>	なし。 ファームウェアの電源監視において、該当電源センサーが無視可能な入力電源のブレを過敏に検知してしまう場合があるため、該当メッセージが出力されます。このため、該当メッセージは無視してください。

表 3-4 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6940465	停電などで一時的に電源供給が途切れた際、以下のようなメッセージが ILOM のイベントログに出力されることがあります。 <pre> 2410 Wed Mar 31 04:06:49 2010 Chassis Log major Mar 31 04:06:49 ERROR: [CMPx] Received Fatal Error </pre> 異常検出箇所は、[ZAMx] であることもあります。	なし。 電源供給が復旧したあと、ILOM CLI インタフェースを利用して、show faulty コマンドを実行してください。ハードウェアエラーが出力されない場合は、このメッセージを無視してください。
6913388	ILOM のイベントログが、Solaris OS のシステムログ (/var/adm/messages) に出力されなくなることがあります。 ILOM ログインイベントの例： <pre> Nov 7 14:13:03 xxxxxxx SC Alert: [ID 178418 daemon.notice] Audit minor: admin : Open Session : object = /session/type : value = shell : success Nov 7 14:13:04 xxxxxxx SC Alert: [ID 434268 daemon.notice] Audit minor: admin : Close Session : object = /session/type : value = shell : success </pre>	なし。 ILOM のリセット操作を実施してください。復旧しない場合には、システム停止後、電源コードを抜き差ししてください。 ILOM リセット操作例： ILOM にログインし、以下のコマンドを実行します。 [ILOM コマンドモードの場合] <pre> -> reset /SP Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y </pre> [ALOM CMT 互換シェルの場合] <pre> sc> resetsc Are you sure you want to reset the SC [y/n]? y </pre>

表 3-4 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6835866	/SYS/VPS で示す消費電力の値（/SYS/VPS value）	なし。
6857524	がしきい値を超えることがあります。	/SYS/VPS で示す消費電力の値は目安です。消費
6858176	このとき、以下のようなイベントログが採取され ます。	電力の正確な値は、/SP/powermgmt/actual_power を参照してください。よって、採取されたイベ ントログは無視してください。
	イベントログ例： 4368 Mon Jun 29 23:53:39 2009 IPMI Log major ID = elf : 06/29/2009 : 23:53:39 : Power Unit : /SYS/VPS : Upper Critical going high : reading 1480.90 > threshold 1215.40 Watts また、消費電力の値（/SYS/VPS value）がしきい 値以下に戻った際に、異常値を表示することがあ ります。 異常値の表示例： 4369 Mon Jun 29 23:54:28 2009 IPMI Log minor ID = e20 : 06/29/2009 : 23:54:28 : Power Unit : /SYS/VPS : Upper Critical going low : reading 0 < threshold 1215.40 Watts	
6823561	ILOM 設定のバックアップおよび復元機能におい て、転送時のプロトコル（transfer_method プロパティ）に、"https" を指定することがで きません。 現象例： -> set dump_uri= https://ipaddress/directory/filename set: Unable to transfer image, please check URI	なし。 他のプロトコル（tftp、ftp、sftp、scp、http）を使 用してください。

表 3-4 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6743379	システムが、新規にインストールされた XAUI カードを認識できないことがあります。 XAUI カードを物理的にインストールしたあと、MB/RISER0/XAUIx のデバイスが有効になっていることを確認してください。 <pre>-> show -d properties /SYS/MB/XAUI0 /SYS/MB/XAUI0 Properties: type = XAUI Board component_state = Enabled fru_name = XAUI_BOARD fru_description = ASY,XAUI,10G,OPTICAL,1U-2U fru_manufacturer = Flextronics Semiconductor fru_version = 04_50 fru_part_number = 5017489 fru_serial_number = A0077C fault_state = OK clear_fault_action = (none)</pre> <pre>-> start /SYS ERROR: The following devices are disabled: MB/XAUI0</pre>	1. システムの電源を切断します。 2. 電源コードを抜き、XAUI カードを取り外します。 3. 電源コードを挿入します。以下のコマンドを入力します。 -> set /SYS/MB/XAUI0 component_state = enabled 4. 電源コードを抜きます。 5. XAUI カードを交換します。 6. 電源コードを挿入し、システムの電源を投入します。
6725254	後述のいずれかのコマンドを使用して CMP モジュールを無効にし、この CMP モジュールを物理的にシステムから取り外すと、それ以降の電源投入時に、無効にした CMP モジュールが OpenBoot PROM の無効デバイスのリストに表示されます。これによって、Solaris OS の自動起動が妨げられる場合があります。 <pre>sc> disablecomponent asr-key -> set /SYS/component component_state=disabled</pre>	無効にした CMP モジュールをすべて有効にしてから物理的に取り外すと、この問題は回避できます。 ok プrompt で次のように入力して、OpenBoot PROM 変数 auto-boot-on-error? を TRUE に設定すると、自動起動に問題を回避できます。 <pre>ok setenv auto-boot-on-error? TRUE</pre>
6724125	CMP モジュールを取り外しても、対応するメモリーモジュールが配置されたままになっている場合、サービスプロセッサが次のメッセージを報告します。 <pre>Fault Critical: /SYS/MB/... prom is unreadable or corrupted.</pre>	完全な CMP/ メモリーモジュールのペアを取り付けるまでは、システムの電源を入れないでください。 この問題に関するパッチの有無を確認してください。

表 3-4 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6591634	システム起動時の OpenBoot PROM 動作中に、ILOM から強制ダンプ指示を実行すると、FATAL エラーメッセージがコンソールログに出力され、次の boot 指示が失敗します。 事象発生例： <pre>{0} ok FATAL: /virtual-devices@100/console@1: Last Trap: Non-Resumable Error : : {0} ok boot FATAL: system is not bootable, boot command is disabled</pre>	この事象から復旧するには、システム電源をオフにしたあと、オンにしてください。 OpenBoot PROM が無応答になった場合は、強制ダンプ指示ではなく、break 指示を ILOM から実施してください。break 指示で復旧しない場合は、システム電源をオフにしたあと、オンにしてください。
なし	本体装置の USB ポートにキーボードを接続している環境において、Solaris OS を再起動したとき、OpenBoot PROM が "Failed to set idle" のメッセージをコンソールログに出力することがあります。 現象例： <pre># /usr/sbin/shutdown -i6 -y -g0 : Resetting... Failed to set idle <--</pre> SPARC Enterprise T5120, Keyboard Present Copyright (c) 1998, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.	なし。 OpenBoot PROM の問題により、USB キーボードに対する idle 設定終了後のデータ参照に問題があります。このため、本体装置および接続された USB キーボードに影響ありません。出力されたメッセージは無視してください。

表 3-4 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
なし	内蔵ファンの搭載 / 非搭載に関わらず、内蔵ファンの故障が誤って検出され、Enhanced Support Facility（以下 ESF）のマシン管理および Server System Manager（以下 SSM）にて以下のようなエラーメッセージを表示されることがあります。 ESF のメッセージ表示例 <pre>FJSVmadm:A:PS0:FJSVmadm:Detected failure on the power supply unit</pre> SSM のメッセージ表示例 <pre>SSMAPL:A::FJSVappltg::status was changed. (component:"PS0" from "normal" to "fatal")</pre> ILOM ステータス確認コマンド（show faulty コマンド）の結果が正常である場合、システムに影響はありません。	ESF での誤検出の場合は、Enhanced Support Facility3.0 マシン管理 パッチ 914718-01 以降を適用してください。 SSM での誤検出の場合は、Server System Manager（FJSVapagt patch）パッチ 914667-05 以降を適用してください。
なし	Cisco Systems 製 Cisco Catalyst スイッチシリーズに ILOM のネットワーク管理ポート（NETMGT）を接続した環境で、スイッチングの再起動やネットワークポートの有効 / 無効操作を実施すると、Cisco Catalyst スイッチおよび ILOM のネットワークポートの LED が点灯せずにネットワークがリンクアップしないことがあります。このため、SSH（Secure Shell）などを利用した ILOM へのアクセスに失敗します。	Cisco IOS ソフトウェア 12.2(53)SG / 12.2(46)SE 版以降を適用してください。 12.2(53)SG / 12.2(46)SE 版以降が適用できない場合には、Cisco Catalyst スイッチと ALOM/ILOM のネットワーク管理ポートの間に他のハブ / スイッチを組み込むことで、この事象を回避できます。 なお、富士通製スイッチングハブにおいて、この事象が回避できることを確認済みです。 ILOM のリセット操作を実施してください。

Oracle VM Server for SPARC に関する問題

Oracle VM Server for SPARC（旧 Logical Domains Manager）に関する問題については、『Oracle VM Server for SPARC ご使用にあたって』を参照してください。

第 4 章

マニュアルの正誤情報

SPARC Enterprise T5440 サーバのマニュアルには、不完全または誤った情報が一部含まれています。次のセクションに正誤情報を示します。

- 『SPARC Enterprise T5440 サーバ はじめにお読みください』 (P. 37)
- 『SPARC Enterprise T5440 サーバ サービスマニュアル』 (P. 38)
- 『SPARC Enterprise T5440 サーバ アドミニストレーションガイド』 (P. 38)
- 『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』 (P. 39)
- 『Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』 (P. 39)
- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』 (P. 40)
- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』 (P. 42)
- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』 (P. 43)

『SPARC Enterprise T5440 サーバ はじめにお読みください』

ラックレールの取り付け手順の記載場所 (CR 6747034)

手順 2 の「サーバを確認用の場所に置きます」の下にある文は正しくありません。正しい文は次のとおりです。

ラック搭載の手順については、次の提供される説明を参照してください。

- ラック取り付けキット
- 『SPARC Enterprise T5440 サーバインストール・セットアップガイド』

『SPARC Enterprise T5440 サーバ サービス マニュアル』

「イーサネットポートの LED」における記述の誤り (CR 6726293)

サービスマニュアル 9 ページ「表： Ethernet ポートの LED」の下記説明には一部誤りがあります。

表： Ethernet ポートの LED

LED	色	説明
右 LED	緑色	リンク / アクティビティインジケータ： • 点 灯 — リンクが確立されています。 • 点滅 — 現在のポートでアクティビティが実行中です。 • 消 灯 — リンクが確立されていません。

オンボードギガビット Ethernet ポートの場合、右側の LED は、ネットワークアクセス発生時に点滅しますが、リンクが確立しているだけでは点 灯 しません。

『SPARC Enterprise T5440 サーバ アドミニストレーションガイド』

「デバイスおよび装置識別名」に関する記述の誤り (CR 6712561)

37 ページの「デバイスおよび装置識別名」に、DB9 シリアルポート /SYS/TTYA が記載されていますが、/SYS/TTYA の構成を解除することはできません。

『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』

IP アドレスの割り当てに関する ILOM コマンドの誤り

23 ページおよび 28 ページに記載されている ILOM コマンドには誤りがあります。
`setpendingipdiscovery=` は、正しくは `set pendingipdiscovery=` です。

『Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』

ILOM の接続に関する留意事項（CR 6806789）

SPARC Enterprise T5440 サーバの場合、ILOM がサポートするアクティブセッションは、シリアル、SSH、および Web インタフェースセッションを含めて、最大 5 個です。

診断トリガーに関する記載内容の誤り

「CLI を使用して診断トリガーの条件を指定する」では、以下の説明が不足しています。

Solaris OS の `shutdown` コマンドによる Solaris OS 再起動、または OpenBoot PROM 上でのリセットでは、診断（POST）は行われません。POST を実行したい場合は、ILOM から、システムのリセット（`reset /SYS`）、またはシステム電源オフ/オン（`stop /SYS`、`start /SYS`）を行う必要があります。

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』

「/SP/clients/dns」のデフォルト値に関する記述の誤り

29 ページおよび 139 ページに記載されている /SP/clients/dns のデフォルト値には誤りがあります。正しくは、"enabled" です。

「システムの問題を診断するために SP データを収集する」における記述の誤り（CR 6806800）

83 ページ「システムの問題を診断するために SP データを収集する」における以下の記述には誤りがあります。

変数	オプション	説明
URI	有効なターゲットディレクトリの場所	ターゲットディレクトリの URI を指定します。URI の形式は次のとおりです。 <code>protocol://username:password@host/directory</code> 「protocol」には、「SFTP」、「TFTP」、または「FTP」のいずれかの転送方法を指定できます。 たとえば、ホスト上で data と命名されたディレクトリにスナップショット情報を格納するには、次のように URI を定義してください。 <code>ftp://joe:mypasswd@host_ip_address/data</code> ディレクトリ data はユーザーのログインに対して相対的であるため、ターゲットディレクトリは多くの場合 /home/joe/data になります。

サービススナップショットユーティリティーでは、TFTP による SP データの収集をサポートしていません。

SP データの収集に関する記述の誤り

83 ページに記載されている以下の記述には誤りがあります。

変数	オプション	説明
<i>data</i>	<code>full</code>	すべてのデータを収集すること（「完全」収集）を指定します。 注 - このオプションを使用すると、実行中のホストがリセットされる場合があります。

Solaris OS の shutdown コマンドによる Solaris OS 再起動、または OpenBoot PROM 上でのリセットでは、診断（POST）は行われません。POST を実行したい場合は、ILOM から、システムのリセット（`reset /SYS`）、またはシステム電源オフ / オン（`stop /SYS`、`start /SYS`）を行う必要があります。

診断トリガーに関する記載内容の誤り

「診断トリガーを指定する」では、以下の説明が不足しています。

Solaris OS の shutdown コマンドによる Solaris OS 再起動、または OpenBoot PROM 上でのリセットでは、診断（POST）は行われません。POST を実行したい場合は、ILOM から、システムのリセット（`reset /SYS`）、またはシステム電源オフ / オン（`stop /SYS`、`start /SYS`）を行う必要があります。

ファームウェアダウンロードに関する留意点

ファームウェアの入手方法については、次のウェブサイトを参照してください。

<https://updatesite.jp.fujitsu.com/unix/jp/download/firmware/>

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』

「部品の有効および無効の切り替え」実施時の留意事項（CR 6624705）

68 ページの「部品情報の表示およびシステム部品の管理」における「部品の有効および無効の切り替え」において、「Actions」ドロップダウンリストから「Enable」または「Disable」を実施した場合においても、以下のように、ILOM CLI インタフェースから実施されたログが採取されます。

Fault critical: SP detected fault at time Wed Jul 18 09:37:15 2007. /SYS/MB/GBE1 Disabled by CLI action.
--

SP データの収集に関する記述の誤り

80 ページに記載されている以下の記述には誤りがあります。

3. 目的のデータセット（「Normal」、「Full」、または「Custom」）を選択します。

- Normal — ILOM、オペレーティングシステム、およびハードウェアの各情報を収集することを指定します。
- Full — すべてのデータを収集することを指定します。「Full」を選択すると、システムがリセットされる場合があります。
- Custom — 次の 1 つまたは複数のデータセットを選択できます。
 - ILOM データ
 - ハードウェアデータ
 - 基本 OS データ
 - 診断データ

SPARC Enterprise T シリーズでは、full オプションを指定しても、実行中のホストがリセットされることはありません。ホストが実行中でも、full オプションを指定できます。

ファームウェアダウンロードに関する留意点

ファームウェアの入手方法については、次のウェブサイトを参照してください。

<https://updatesite.jp.fujitsu.com/unix/jp/download/firmware/>

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』

「SCC に格納される ILOM 情報」に関する注意事項

交換用のサーバに SCC を移動する場合は、以下の点に注意してください。

障害が発生したサーバと交換用のサーバの ILOM ファームウェア版数が異なる場合、SCC に格納されている情報は、無視されるか上書きされる場合があります。ILOM ファームウェア版数が同じ場合、その情報は保持されます。

powercycle オプションの指定に関する記述の誤り (CR 6881020)

12 ページの「ホストの制御情報の表示および構成」の「再起動に失敗した場合のシステムの動作を指定する」に記載されている powercycle オプションを指定した場合、電源のオフオンが実行されるのではなく、ハードウェアのリセットが強制的に実施されます。

flashupdate (ALOM CMT コマンド) コマンドの -v オプションについて (CR 6806268)

表「ALOM CMT シェルの状態および制御コマンド」に記載されている flashupdate の概要に、[-v] オプションについての記載がありません。

flashupdate (ALOM CMT コマンド) コマンド実行時に、-v オプションを指定しても、実行結果の詳細は表示されません。また、-v オプションを指定してもシステムファームウェアの更新に影響はありません。

付録 A

修正済みの問題

この付録では、SPARC Enterprise T5440 サーバに関する修正済みの問題について説明します。Solaris OS、システムファームウェア、またはその他ソフトウェアの最新バージョンを使用することにより回避できます。修正情報の詳細については、各表の「回避方法」を参照してください。

- 「ハードウェアおよび機器に関する問題」(P. 45)
- 「Solaris OS に関する問題」(P. 46)
- 「ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題」(P. 50)

ハードウェアおよび機器に関する問題

表 A-1 に、ハードウェアおよび機器に関する修正済みの問題の一覧を示します。

表 A-1 ハードウェアおよび機器に関する修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6724921	PCI ボックススロットにフレームバッファカードが取り付けられ、著しい作業負荷がかかっているというまれな状況下では、システムがリセットされたり、少なくとも 1 つの「致命的エラー」メッセージが SP コンソールに表示されたりすることがあります。次に例を示します。 Chassis major: Aug 7 14:32:04 ERROR: [CMP0] Received Fatal Error	PCI ボックスに XVR-300 フレームバッファカードを取り付けしないでください。それ以外の状況下でこのエラーメッセージが表示される場合は、当社技術員に問い合わせてください。

Solaris OS に関する問題

表 A-2 に、Solaris OS に関する修正済みの問題の一覧を示します。

表 A-2 Solaris OS に関する修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6702351	<code>cfgadm -c unconfigure</code> を連続実行すると、青色 LED が点灯しないことがあります。	注 - Solaris パッチ ID 139555-03 以降で修正済み。 青色 LED が点灯するまでは時間がかかりますので、連続して実行しないようにしてください。
6693633	100 以上のスレッドを使用して、多数の小さなサイズ (MTU サイズより小さい) パケットをネットワーク上に転送するマルチスレッドアプリケーションでは、パフォーマンスが期待していた値を下回る場合があります。	注 - Solaris パッチ ID 141444-03 以降で修正済み。 期待していたパフォーマンスが得られず、仮想ドメインで多数の CPU または多数のスレッドを使用している場合は、CPU またはスレッドの数を減らしてパフォーマンスの改善を試みてください。
6687884	ジャンボフレームが有効な場合は、 <code>netstat</code> および <code>nicstat</code> などのパフォーマンス測定ツールが誤ったパフォーマンスデータを表示することがあります。	注 - Solaris パッチ ID 139570-01 以降で修正済み。 <code>netstat</code> および <code>nicstat</code> などのパフォーマンス測定ツールを使用している場合は、ジャンボフレームを無効にします。
6686544	1 つの CMP のみが有効な場合、NCP パフォーマンスが低下します。	注 - Solaris パッチ ID 139975-02 以降で修正済み。 1 つを除きすべての CMP に割り当てられた仮想 CPU のすべてをオフラインにすると、ハードウェア暗号化のパフォーマンスが低下します。期待どおりのパフォーマンスが得られることに対して懸念がある場合は、暗号化操作を実行する前に、少なくとも 1 つの仮想 CPU を再び有効にします。
6678770	IPSec アクセラレーションに UltraSPARC=T2 暗号ハードウェアを使用すると、エラーが発生することがまれにあります。IPSec の実行中に接続の問題が発生した場合、および次のようなコンソールメッセージが表示された場合、この問題が発生した可能性があります。 WARNING: n2cp0: cwq 2 encountered a protocol error, service continued.	注 - Solaris パッチ ID 140386-04 以降で修正済み。 SUNWn2cpact パッケージを削除します。次のように入力します。 # <code>pkgrm SUNWn2cpact</code>

表 A-2 Solaris OS に関する修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6660074	非対称暗号化のパフォーマンスは、チューニング可能なドライバによって改善される可能性があります。	注 - Solaris パッチ ID 139975-03 以降で修正済み。 ncp ドライバのスケジューリングスレッドの数をデフォルト値から増やすことで、パフォーマンスを改善できます。デフォルト値は 4 です。 /platform/sun4 v/kernel/drv/ncp.conf ファイルに次の行を追加してください。 ncp-threads-per-core=6
6651903	長時間のテスト実行中に内部ループバックモードで実行すると、SunVTS xnetlbttest が断続的に失敗します。失敗すると、次のエラーメッセージが表示されます。 Excessive packets dropped	注 - Solaris パッチ ID 138179-01 以降で修正済み。
6640564	I/O ドメインで物理ディスクの代わりにディスクイメージや SVM ボリュームが使用されている場合には、論理ドメイン (LDoms) 環境のゲストの仮想ディスク I/O パフォーマンスが低下することがあります。このパフォーマンス低下は、複数のアプリケーションが同じ仮想ディスクに対して I/O を実行する場合、特に顕著になります。	注 - Solaris パッチ ID 139562-02 以降で修正済み。 ゲストドメインの仮想ディスクとして物理ディスクを使用するように I/O ドメインを設定します。 I/O ドメインでディスクイメージが必要な場合は、SVM ボリュームではなく ZFS ボリューム上にイメージを置くことによりパフォーマンスの向上を図ることができます。
6638112	多数のスレッドやプロセスによるメモリの同一ページへの同時アクセスにより負荷が大きい場合には、システムパニックが発生することがあります。パニックメッセージには send_mondo タイムアウトが記録されます。	注 - Solaris パッチ ID 141414-01 以降で修正済み。 次の行を /etc/system ファイルに追加します。 set xc_tick_limit_scale = 5 システムをリブートします。この回避方法の実行後もパニックが再発生する場合は、当社技術員までご連絡ください。
6603354	XAUI のループバックテスト中に、SunVTS xnetlbttest が失敗することがあります。失敗すると、次のエラーメッセージが表示されます。 Excessive packets dropped	注 - Solaris パッチ ID 138048-02 以降で修正済み。 XAUI インタフェースで SunVTS xnetlbttest を実行しないでください。
6588550	prtdiag -v コマンドおよび prtpicl コマンドの処理が遅くなり、異常停止しているように見えることがあります。このコマンドは、完了までに 5 分かかることがあります。	注 - Solaris パッチ ID 139502-01 以降で修正済み。 数分たってから再実行してください。

表 A-2 Solaris OS に関する修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6581309	グラフィックスデバイスおよびキーボードがコンソール用に指定されている場合、制御ドメインのコンソール動作に矛盾が発生します。この状況は、OpenBoot PROM 変数の input-device および output-device に初期値の virtualconsole 以外が設定されている場合に発生します。 制御ドメインがこのように設定されている場合、一部のコンソールメッセージがグラフィックスコンソールに送信され、その他のコンソールメッセージが仮想コンソールに送信されます。その結果、どちらのコンソールの情報も不完全になります。また、システムが異常停止した場合、またはブレイクがコンソールに送信された場合、制御が仮想コンソールに渡され、仮想コンソールでのキーボード入力が必要になります。その結果、グラフィックスコンソールが異常停止したように見えます。	注 - Solaris 10 10/08 およびパッチ ID 137137-09 以降で修正済み。 仮想コンソールのみを使用します。 ok プロンプトから、input-device 変数と output-device 変数の両方に初期値の virtual-console が設定されていることを確認します。 input-device および output-device が graphics console に設定され、グラフィックスコンソールが異常停止したように見える状態になったら、サービスプロセッサから仮想コンソールに接続して、必要な入力を行います。仮想コンソールキーボードの Enter キーを 1 回押して、仮想コンソールでの出力を確認します。
6555956	リポート中にパニックが発生し、次のメッセージが表示されることがあります。 Fatal error has occurred in:PCIE root complex. パニックはリポート時のみに発生し、パニック後のリポートで観察されたことはありません。	注 - Solaris パッチ ID 128304-02 以降で修正済み。 パニックのあとに自動的にリポートするようにシステムが設定されていることを確認します。自動リポートの設定の詳細は、『Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440 サーバ』を参照してください。
6552999 6731560	詳細 (-v) オプションを制御ドメインの prtdiag コマンドに指定すると、追加の環境ステータス情報が表示されます。Control-C の発行によってこの情報の出力が中断されると、picld(1M) デーモンは、その時点から環境ステータス情報を prtdiag に供給しない状態に移行する場合があります。その場合、追加の環境データは表示されなくなります。	注 - Solaris パッチ ID 138082-01 以降および 139502-02 以降で修正済み。 「prtdiag をキャンセルすると、以降の prtdiag の出力でステータスが表示されないことがある (CR 6552999、6731560)」(P. 49) を参照してください。
6311743	複数のイーサネットインタフェースで構成され、大量の TCP データを受信するシステムは、多数の接続がアクティブにデータを受信するため、パフォーマンスが低下することがあります。しかし、システム障害は発生していません。 この問題は、2 つ以上の 10 Gbit イーサネットインタフェースまたは 8 Gbit 以上のイーサネットインタフェースを持ち、TCP を介した多数の接続から大量のデータを受信するという負荷がかかるシステムに現れます。このような状況では、TCP 受信のパフォーマンスは期待どおりに向上しません。特定のポイントを超えると、全体の受信パフォーマンスが低下します。	注 - Solaris パッチ ID 141414-07 以降で修正済み。 この不具合に利用可能なパッチがないかどうかを確認してください。

prtdiag をキャンセルすると、以降の prtdiag の出力でステータスが表示されないことがある (CR 6552999、6731560)

この問題は、Solaris パッチ ID 139502-02 以降で修正済みです。

詳細 (-v) オプションを制御ドメインの prtdiag コマンドに指定すると、追加の環境ステータス情報が表示されます。Control-C の発行によってこの情報の出力が中断されると、picld(1M) デーモンは、その時点から環境ステータス情報を prtdiag に供給しない状態に移行する場合があります。その場合、追加の環境データは表示されなくなります。

回避方法： 次のコマンドで picld SMF サービスを再起動します。prtdiag -v や prt看cl でステータスが表示されないときは、数分待つて再実行するか picl を再起動します。picl を再起動後は、10 分くらい間をあけてから prtdiag -v を実行してください。

方法 1) picl の再起動

```
# svcadm restart picl
ここで数分待つ。
# prtdiag -v
```

方法 2) picl の停止と起動

```
# svcadm disable svc:/system/picl:default
# rm -rf /var/run/picld_door
# svcadm enable svc:/system/picl:default
ここで数分待つ。
# prtdiag -v
```

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する問題

ここでは、ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する修正済みの問題を示します。

- 「システムファームウェア 7.4.4.f 以降で修正済みの問題」 (P. 51)
- 「システムファームウェア 7.4.2 以降で修正済みの問題」 (P. 52)
- 「システムファームウェア 7.4.0.b 以降で修正済みの問題」 (P. 53)
- 「システムファームウェア 7.2.11 以降で修正済みの問題」 (P. 54)
- 「システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済みの問題」 (P. 57)
- 「システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みの問題」 (P. 59)
- 「システムファームウェア 7.2.8 以降で修正済みの問題」 (P. 65)
- 「システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みの問題」 (P. 67)
- 「システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題」 (P. 71)
- 「システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済みの問題」 (P. 78)

システムファームウェア 7.4.4.f 以降で修正済みの問題

表 A-3 システムファームウェア 7.4.4.f 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
7080248	システム電源オフ指示を ILOM 側、または Solaris OS 側から発行した場合に、電圧異常を示す以下の ILOM イベントログが採取され、システム電源オフ処理に失敗します。 事象発生時例： <pre>"/SYS/MB/CPU0/DVRM_15/OOV_+1V5: asserted failure"</pre> "SP detected fault at time Wed May 9 20:15:18 2012. Host Power Failure:MB_DC_POK Fault" このとき、システム電源のステータスは、一時的に power_state = Off となりますが、すぐに、power_state = On に戻り、システム電源処理が完了しません。	注 - システムファームウェア 7.4.4.f 以降で修正済み。 なし。 事象が発生した場合は、再度システム電源オフ指示を発行し、失敗する場合は電源コードを抜いてください。

システムファームウェア 7.4.2 以降で修正済みの問題

表 A-4 システムファームウェア 7.4.2 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
7020953	システムファームウェア 7.4.0.b 版以降において、Solaris OS 起動時、OS コンソールに SUN4V-8002-SP の FMA メッセージが出力される場合があります。 事象発生時刻： EVENT-TIME: Wed Jan 26 13:01:18 JST 2011 PLATFORM: SUNW, SPARC-Enterprise-T5220, CSN: -, HOSTNAME: XXXXXX SOURCE: cpumem-diagnosis, REV: 1.7 EVENT-ID: 0c8bb637-d649-6027-d5e9-b255046522de DESC: The error report generator has received input data that is inconsistent or improperly formatted. Refer to http://sun.com/msg/SUN4V-8002-SP for more information. AUTO-RESPONSE: No automated response. IMPACT: This error does not affect system operation. The error which could not be reported may have more serious impact which cannot be determined. REC-ACTION: Call your service provider to determine if your system requires a firmware upgrade. Please retain the error log file.	注 - システムファームウェア 7.4.2 以降で修正済み。 なし。 出力されたメッセージを無視してください。システムへの影響はありません。 Solaris OS 起動時に、ファームウェアの不具合により、不適切なイベントが Solaris OS 側に送信される場合があります。その場合、Solaris OS は該当イベントを解釈できず、該当メッセージを出力します。SUN4V-8002-SP は、Solaris OS 上の異常監視機能が不適切なイベントを受信したことを意味します。

システムファームウェア 7.4.0.b 以降で修正済みの問題

表 A-5 システムファームウェア 7.4.0.b 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6983478 6985018 7009707	システム運用中に、メモリコレクタブルエラーにより、システムが停止する場合があります。 また、システム停止以外に システムパニック、システムリセット、システム無応答になる場合があります。	注 - システムファームウェア 7.4.0.b 以降で修正済み。 なし。
6981373 6946636 6913105 6908024	ILOM 経由で OS コンソールに接続したとき、コンソールへの入力や表示ができない場合があります。また、このとき、Solaris OS 上からコンソールへの出力が失敗する場合があります。	注 - システムファームウェア 7.4.0.b 以降で修正済み。 システム停止後、電源コードを取り外し、再度電源コードを接続してください。
6981373 6946636 6908024	SSH クライアントから ILOM へのログインに失敗します。または、ILOM コマンドの実行に失敗する場合があります。 障害発生時には、以下のような現象が発生します。 1. SSH (Secure Shell) クライアントから、ILOM へのログインに失敗します。 2. Solaris OS に対する強制ダンプ指示が失敗します。 3. ILOM からの電源切断指示が失敗します。 4. ILOM からの電源投入指示に失敗します。 OS コンソールが取得できません。または、"y" 入力後、何も入力することができません。	注 - システムファームウェア 7.4.0.b 以降で修正済み。 システム停止後、電源コードを取り外し、再度電源コードを接続してください。
6922544	ILOM 時刻の Timezone が GMT 以外に設定されているときに、ILOM の時刻を設定し電源コードの抜き差しをすると、ILOM の初期時刻および Solaris OS の起動時刻がずれる場合があります。	注 - システムファームウェア 7.4.0.b 以降で修正済み。 ILOM の時刻設定をした場合、電源コードの抜き差しおよび Solaris OS の起動をする前に、ILOM をリセットしてください。

システムファームウェア 7.2.11 以降で修正済みの問題

表 A-6 システムファームウェア 7.2.11 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6989852	ILOM ファームウェアがファンの回転数を "0" と誤認識することで、保守要求 LED が点灯することがあります。その場合、ILOM イベントログが出力されます。詳細は、「 ファン回転数の誤認識により、保守要求 LED が点灯する場合がある (CR 6989852) 」(P. 54) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.11 以降で修正済み。 なし。 ILOM リセットにより復旧してください。異常がクリアされた場合、この事象に該当するため、ファンの交換は不要です。なお、ILOM リセットによるシステムへの影響はありません。
6962499	電源コードの抜き差し後、POST 実行中 /SYS/XXXXX prom is unreadable or corrupted メッセージが出力され、ok プロンプ トで停止する場合があります。詳細は、「 電源コードの抜き差し後、POST 実行中にエラーメッセージが表示される場合がある (CR 6962499) 」(P. 55) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.11 以降で修正済み。 システムの電源を切断してから電源コードを抜くまでの時間、および、電源コードを抜いてから挿入するまでの時間をそれぞれ 180 秒以上あけてください。

ファン回転数の誤認識により、保守要求 LED が点灯する場合がある (CR 6989852)

この問題は、システムファームウェア 7.2.11 以降で修正済みです。

ILOM ファームウェアがファンの回転数を "0" と誤認識することで、保守要求 LED が点灯することがあります。その場合、以下のイベントログが出力されます。

ILOM イベントログ例：

IPMI	critical: "ID = 9a : 08/17/2010 : 00:39:17 : Fan : /FB0/FM0/F0/TACH
: Lower	
Non-recoverable going low	: reading 0 <= threshold 2400 RPM"
IPMI	critical: "ID = 9a : 08/17/2010 : 00:39:22 : Fan : /FB0/FM0/F1/TACH
: Lower	
Non-recoverable going low	: reading 0 <= threshold 2400 RPM"
IPMI	critical: "ID = 9a : 08/17/2010 : 00:39:26 : Fan : /FB0/FM1/F0/TACH
: Lower	
Non-recoverable going low	: reading 0 <= threshold 2400 RPM"
IPMI	critical: "ID = 9a : 08/17/2010 : 00:39:30 : Fan : /FB0/FM2/F1/TACH
: Lower	
Non-recoverable going low	: reading 0 <= threshold 2400 RPM"

showenvironment コマンド表示例：

```
-----
Fan Status:
-----
Fans (Speeds Revolution Per Minute):
Sensor                               Status      Speed      Warn      Low
-----
/SYS/FANBD0/FM0/F0/TACH              FAILED          0      4000      2400
/SYS/FANBD0/FM0/F1/TACH              FAILED          0      4000      2400
/SYS/FANBD0/FM1/F0/TACH              FAILED          0      4000      2400
/SYS/FANBD0/FM1/F1/TACH              OK             6400      4000      2400
/SYS/FANBD0/FM2/F0/TACH              OK             7000      4000      2400
/SYS/FANBD0/FM2/F1/TACH              FAILED          0      4000      2400
```

showfaults コマンド表示例：

```
sc> showfaults
Last POST Run: Mon Jul 12 00:08:46 2010

Post Status: Passed all devices
ID FRU Fault
1 /SYS/FANBD0/FM0 SP detected fault:
  TACH at /SYS/FANBD0/FM0/F0 has reached low non-recoverable threshold.
2 /SYS/FANBD0/FM0 SP detected fault:
  TACH at /SYS/FANBD0/FM0/F1 has reached low non-recoverable threshold.
3 /SYS/FANBD0/FM1 SP detected fault:
  TACH at /SYS/FANBD0/FM1/F0 has reached low non-recoverable threshold.
4 /SYS/FANBD0/FM2 SP detected fault:
  TACH at /SYS/FANBD0/FM2/F1 has reached low non-recoverable threshold.
```

回避方法：なし。ILOM リセットにより復旧してください。異常がクリアされた場合、この事象に該当するため、ファンの交換は不要です。なお、ILOM リセットによるシステムへの影響はありません。

電源コードの抜き差し後、POST 実行中にエラーメッセージが表示される場合がある（CR 6962499）

この問題は、システムファームウェア 7.2.11 以降で修正済みです。

電源コードの抜き差し後、POST 実行中に /SYS/XXXXX prom is unreadable or corrupted メッセージが出力され、ok プロンプトで停止する場合があります。

メッセージ例:

```
Chassis | major: Host has been powered on
0:0:0>
0:0:0>SPARC-Enterprise[TM] T5440 POST 4.30.6 2009/12/01 13:08
/export/delivery/delivery/4.30/4.30.6/post4.30.6-micro/Niagara/huron/int
egrated (root)
0:0:0>Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved
0:0:0>POST enabling CMP 0 threads: ffffffff.fffffff
0:0:0>VBSC mode is: 00000000.00000001
0:0:0>VBSC level is: 00000000.00000001
0:0:0>VBSC selecting Normal mode, MAX Testing.
0:0:0>VBSC setting verbosity level 2
0:0:0>Basic Memory Tests....Done
0:0:0>Test Memory....Done
0:0:0>Setup POST Mailbox ....Done
0:0:0>Master CPU Tests Basic....Done
0:0:0>Init MMU.....
Fault | critical: SP detected fault at time Mon Jan 18 08:45:10 2010. /SYS/PADCRD
prom is unreadable or corrupted
0:0:0>NCU Setup and PIU link train....Done
0:0:0>L2 Tests....Done
0:0:0>Extended CPU Tests....Done
0:0:0>Scrub Memory....Done
0:0:0>SPU CWQ Tests...Done
0:0:0>MAU Tests...Done
0:0:0>Network Interface Unit Tests....Done
0:0:0>Functional CPU Tests....Done
0:0:0>Extended Memory Tests....Done
2010-01-18 08:46:50.299 0:0:0>INFO:
2010-01-18 08:46:50.302 0:0:0> POST Passed all devices.
2010-01-18 08:46:50.307 0:0:0>POST: Return to VBSC.
2010-01-18 08:46:50.310 0:0:0>Master set ACK for vbsc runpost command and
spin...
Chassis | major: Host is running

SPARC Enterprise T5440, No Keyboard
Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
OpenBoot 4.30.6, 8064 MB memory available, Serial #85367270.
Ethernet address 0:21:28:16:99:e6, Host ID: 851699e6.

{0} ok
```

この事象は、システムの電源を切断してから電源コードを抜くまでの時間が短い場合、または電源コードを抜いたあとに電源コードを挿入するまでの時間が短い場合に発生します。これらの時間が短いと ILOM の内部処理が正常に終了しません。

この事象が発生した場合は、以下の手順を実施してください。以下の手順で復旧した場合は、部品交換の必要はありません。

1. システムの電源を切断します。

電源切断操作例：

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
SC> poweroff -y
```

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> stop -script /SYS
```

2. 180 秒以上待ちます。

3. 電源コードを抜きます。

4. 180 秒以上待ちます。

5. 電源コードを挿入します。

回避方法：システムの電源を切断してから電源コードを抜くまでの時間、および、電源コードを抜いてから挿入するまでの時間をそれぞれ 180 秒以上あけてください。

システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済みの問題

表 A-7 システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6979608	特定の版数以降の電源ユニットを搭載した T5440 サーバにおいて、システム起動時に、電源異常を示す ILOM イベントログが採取され、Solaris OS のシステムログ (/var/adm/messages) に出力される場合があります。詳細は、「 T5440 サーバにおいて、システム起動時に電源異常を示す ILOM イベントログが採取される場合がある (CR 6979608) 」(P. 58) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済み。 なし。 ILOM ファームウェアにおけるセンサー参照方法に誤りがあります。システム起動時のメッセージ表示のみの問題であるため、このメッセージは無視してください。

表 A-7 システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6948710	システムファームウェア 7.2.7.b 以降で、システム起動時およびシステム稼働中に間欠で、デバイス（存在しないデバイスも含む）の活性挿抜に関するメッセージが表示される場合があります。 搭載されていないデバイスのメッセージ表示例： Chassis major: Hot insertion of /SYS/MB/RISER1/XAUI1 Chassis major: Hot removal of /SYS/MB/RISER1/XAUI1 搭載されているデバイスのメッセージ表示例： Chassis major: Hot removal of /SYS/MB/CMP0/BR1/CH0/D0 Chassis major: Hot insertion of /SYS/MB/CMP0/BR1/CH0/D0	注 - システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済み。 なし。 ILOM ファームウェアのセンサー参照方法に誤りがあります。この障害によるシステムへの影響はありません。show faulty コマンドで本体装置の異常が検出されない場合は、出力されたメッセージは無視してください。
6734788 6784914	システム運用中に、PCIEX-8000-6D のメッセージ出力にてパニックすることがあります。 CD/DVD/USB デバイスに対して、高負荷なアクセスをすると発生頻度が高まりますが、DVD ドライブを使用していないときでも、Solaris OS の vold(1M) が定期的に DVD ドライブに対してアクセスをしているため、まれにパニックすることがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済み。 DVD ドライブは Solaris OS ・ ソフトウェアのインストール、または、パッチ ・ PTF（一括修正）の適用以外では使用しないでください。 また、システム運用中は、vold(1M) の停止を行ってください。vold(1M) を停止してもシステム運用に支障はありません。 • vold(1M) の停止方法 SMF サービスである volfs サービスを無効にしてください。 # svcadm disable volfs また、DVD などのリムーバブルデバイスを使用する場合は、以下のコマンドを実行してください。 # svcadm enable volfs

T5440 サーバにおいて、システム起動時に電源異常を示す ILOM イベントログが採取される場合がある（CR 6979608）

この問題は、システムファームウェア 7.2.10.a 以降で修正済みです。

特定の版数以降の電源ユニット (*) を搭載した T5440 サーバにおいて、システム起動時に、電源異常を示す以下の ILOM イベントログが採取され、Solaris OS のシステムログ（/var/adm/messages）に出力される場合があります。

なお、システムの起動は正常に完了し、LED は点 灯 しません。メッセージ出力だけの問題です。

事象発生時のイベントログ例：

Chassis	major	:"/SYS/PSx/STATUS_OK: asserted failure"
Chassis	minor	:"/SYS/PSx/STATUS_OK: reading is OK"

(*): ご使用の装置に該当の電源が搭載されているかは、以下に示すコマンドで確認してください。

[ILOM コマンドモードの場合]

show /SYS/PSx コマンドで該当の電源ユニットを参照した際の出力結果に、以下の部品番号が含まれるか確認してください。

fru_part_number = 3002249

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

showfru /SYS/PSx コマンドで該当の電源ユニットを参照した際の出力結果に、以下の部品番号が含まれるか確認してください。

/Sun_Part_Number_DataR/Sun_Part_No: 3002249

回避方法：なし。ILOM ファームウェアにおけるセンサー参照方法に誤りがあります。システム起動時のメッセージ表示のみの問題であるため、このメッセージは無視してください。

システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みの問題

表 A-8 システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6948680	ILOM Web インタフェースの「Remote Control」-->「Diagnostics」タブにて、システム診断の設定 (/HOST/diag) を変更する際、「Trigger」に以下の値を単独で選択すると "Error:Invalid property value" というポップアップが表示され、「Trigger」の値の設定に失敗します。 • Power On • User Reset	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 なし。 ILOM CLI インタフェースの set /HOST/diag trigger= (value) コマンドを利用して、設定してください。

表 A-8 システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6947945	富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードを搭載してシステムを起動すると、ILOM CLI インタフェースにおいて、4Gbps ファイバチャネルカードが F20 カードと誤って認識されます。また、スロット番号も誤って表示されます。prtdiag -v コマンドにおける FRU Status においても、F20 カードと誤って認識、表示される場合があります。 詳細は、「富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードが F20 カードと誤って認識される (CR 6947945)」(P. 61) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 なし。 無視してください。ファイバチャネルカードの実装確認は、Solaris OS の prtdiag コマンドの IO Devices を使用してください。 詳細は、「富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードが F20 カードと誤って認識される (CR 6947945)」(P. 61) を参照してください
6946636 6908024	Oracle VM Server for SPARC (旧 Logical Domains Manager) 環境において、ドメイン構成を変更したときなど、ドメイン構成情報を ILOM に保存する際に実行するコマンド ldm add-spconfig (または、ldm add-config) が、ILOM メモリー不足のため失敗する場合があります。 障害時の現象例： <pre># ldm add-spconfig config_initial Error: Operation failed because the system controller ran out of memory. Before being able to save a new configuration, one or more of the existing ones must be deleted</pre>	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 システム停止後、電源コードを取り外し、再度電源コードを接続してください。
6942238	PCI ボックスに接続するリンクカードを搭載してシステムを起動すると、ILOM CLI インタフェースおよび prtdiag -v コマンドの LEDs、FRU Status において、スロット番号が誤って表示されます。 詳細は、「PCI ボックスに接続するリンクカードのスロット番号が誤って表示される (CR 6942238)」(P. 62) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 なし。 無視してください。リンクカードの実装確認は、Solaris OS の prtdiag コマンドの IO Devices を使用してください。 詳細は、「PCI ボックスに接続するリンクカードのスロット番号が誤って表示される (CR 6942238)」(P. 62) を参照してください

表 A-8 システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6902381	サーバの電源投入を行った場合、フロントパネルの全 LED、または右側の LED すべてが点灯することがあります。また、ファームウェア版数 7.2.2.e 以降は、ILOM のステータス確認コマンド (showenvironment コマンド) でも該当の LED は ON の状態を表示します。この現象自体は、あくまで LED 表示のみの問題であるため、システムに影響はありません。	注 - システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済み。 なし。 この現象が発生した場合には、ILOM のリセット操作を実施してください。復旧しない場合には、システム停止後、電源コードを抜き差ししてください。 ILOM リセット操作例： ILOM にログインし、以下のコマンドを実行します。 [ILOM コマンドモードの場合] <pre>-> reset /SP</pre> Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y [ALOM CMT 互換シェルの場合] <pre>sc> resetsc</pre> Are you sure you want to reset the SC [y/n]? y

富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードが F20 カードと誤って認識される（CR 6947945）

この問題は、システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みです。

富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードを搭載してシステムを起動すると、ILOM CLI インタフェースにおいて、4Gbps ファイバチャネルカードが F20 カードと誤って認識されます。また、スロット番号も誤って表示されます。prtdiag -v コマンドにおける FRU Status においても、F20 カードと誤って認識、表示される場合があります。

以下に障害時の現象例を示します。

構成：

PCIE#0: ファイバチャネルカード
 PCIE#1: 空き
 PCIE#2: 空き
 PCIE#3: 空き
 PCIE#4: 空き
 PCIE#5: 空き

ILOM CLI インタフェースの表示例：

```
/SYS/MB/RISER1/PCIE1/F20CARD
Properties:
    type = F20 Card
    ipmi_name = RSR1/PCIE1/F20
    fault_state = OK
    clear_fault_action = (none)
```

prtdiag -v コマンドの FRU Status の表示例：

```
# prtdiag -v
...
===== FRU Status =====
Location                                Name              Status
-----
...
SYS/MB/RISER1/PCIE1                    F20CARD          enabled
...
```

回避方法：なし。無視してください。ファイバチャネルカードの実装確認は、Solaris OS の prtdiag コマンドの IO Devices を利用してください。

prtdiag 実行結果：

```
# prtdiag
...
===== IO Devices =====
Slot +          Bus   Name +                      Model
Status          Type  Path
-----
...
MB              FIBRE fibre-channel
                /pci@500/pci@0/pci@9/fibre-channel
...
```

PCI ボックスに接続するリンクカードのロット番号が誤って表示される（CR 6942238）

この問題は、システムファームウェア 7.2.10 以降で修正済みです。

PCI ボックスに接続するリンクカードを搭載してシステムを起動すると、ILOM CLI インタフェースおよび prtdiag -v コマンドの LEDs、FRU Status において、ロット番号が誤って表示されます。

以下に障害時の現象例を示します。

構成 :

- PCIE#0: 空き
- PCIE#1: 空き
- PCIE#2: 空き
- PCIE#3: 空き
- PCIE#4: 空き
- PCIE#5: リンクカード

ILOM CLI インタフェースの表示例 :

```
/SYS/MB/RISER0/PCIE3/LINK
Properties:
    type = Link Card
    fru_description = Copper Link Card
    fru_manufacturer = Celestica
    fru_version = 02_51
    fru_part_number = 5017041
    fru_serial_number = XP00DD
    fault_state = OK
    connection = none
    clear_fault_action = (none)
```

prtdiag -v コマンドの LEDs および FRU Status の表示例 :

```
# prtdiag -v
...
LEDs:
-----
Location                                LED      State
-----
...
SYS/MB/RISER0/PCIE3/LINK                DATA    off
SYS/MB/RISER0/PCIE3/LINK                MGMT     off
...
===== FRU Status =====
Location                                Name      Status
-----
...
SYS/MB/RISER0/PCIE3                    LINK     enabled
...
```

回避方法 : なし。無視してください。リンクカードの実装確認は、Solaris OS の prtdiag コマンドの IO Devices を利用してください。

prtdiag 実行結果：

```
# prtdiag
...
===== IO Devices =====
Slot +   Bus   Name +                               Model
Status  Type  Path
-----
...
PCIE5    PCIE   FJSV,e4ta-fjgi                      Broadcom,BCM5704C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/FJSV,e4ta@4
PCIE5    PCIE   FJSV,e4ta-fjgi                      Broadcom,BCM5704C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0/FJSV,e4ta@4,1
PCIE5    PCIE   FJSV,e4ta-fjgi                      Broadcom,BCM5704C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0,1/FJSV,e4ta@6
PCIE5    PCIE   FJSV,e4ta-fjgi                      Broadcom,BCM5704C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@1/pci@0/pci@0/pci@0,1/FJSV,e4ta@6,1
PCIE5    PCIE   FJSV,e2ta-fjgi                      Broadcom,BCM5715C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@1/pci@0/pci@9/pci@0/FJSV,e2ta@4
PCIE5    PCIE   FJSV,e2ta-fjgi                      Broadcom,BCM5715C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@1/pci@0/pci@9/pci@0/FJSV,e2ta@4,1
PCIE5    PCIE   FJSV,e4tb-fjgi                      Broadcom,BCM5715C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@2/pci@0
      /FJSV,e4tb@4
PCIE5    PCIE   FJSV,e4tb-fjgi                      Broadcom,BCM5715C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@2/pci@0
      /FJSV,e4tb@4,1
PCIE5    PCIE   FJSV,e4tb-fjgi                      Broadcom,BCM5715C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@4/pci@0
      /FJSV,e4tb@4
PCIE5    PCIE   FJSV,e4tb-fjgi                      Broadcom,BCM5715C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@0/pci@0/pci@4/pci@0
      /FJSV,e4tb@4,1
PCIE5    PCIE   FJSV,e4ta-fjgi                      Broadcom,BCM5704C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@1/pci@0/FJSV,e4ta@4
PCIE5    PCIE   FJSV,e4ta-fjgi                      Broadcom,BCM5704C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@1/pci@0/FJSV,e4ta@4,1
PCIE5    PCIE   FJSV,e4ta-fjgi                      Broadcom,BCM5704C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@1/pci@0,1/FJSV,e4ta@6
PCIE5    PCIE   FJSV,e4ta-fjgi                      Broadcom,BCM5704C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@1/pci@0,1/FJSV,e4ta@6,1
PCIE5    PCIE   FJSV,e2ta-fjgi                      Broadcom,BCM5715C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@9/pci@0/FJSV,e2ta@4
PCIE5    PCIE   FJSV,e2ta-fjgi                      Broadcom,BCM5715C
      /pci@500/pci@0/pci@c/pci@0/pci@9/pci@0/pci@9/pci@0/FJSV,e2ta@4,1
...
```

システムファームウェア 7.2.8 以降で修正済みの問題

表 A-9 システムファームウェア 7.2.8 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6919764	システムファームウェア 7.2.7.b において、富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードを搭載しているシステムでは、システム電源オン後、"F20CARD prom is unreadable or corrupted" のメッセージが ILOM のイベントログに出力され、保守要求 LED が点灯することがあります。 Solaris OS は、正常に起動完了し、Solaris OS 上は、ファイバチャネルカードも正常に認識されます。 詳細は、「富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードを搭載しているシステムで、電源オン後に保守要求 LED が点灯することがある (CR 6919764)」(P. 66) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.8 以降で修正済み。 電源コード挿入後、または ILOM リセット完了後、約 180 秒間あけてから、システム電源を投入してください。
6908024	OS コンソールにおいて入力ができない場合があります。ただし、OS コンソールからの表示は、正常に行われます。	注 - システムファームウェア 7.2.8 以降で修正済み。 ILOM のリセット操作を行ってください。復旧しない場合は、システムをシャットダウンし、システムの電源を再投入してください。 ILOM リセット操作例： <pre>-> reset /SP Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y Performing hard reset on /SP</pre> システムの電源の再投入操作例： <pre>-> stop /SYS -> start /SYS</pre>

富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードを搭載しているシステムで、電源オン後に保守要求 LED が点灯することがある (CR 6919764)

この問題は、システムファームウェア 7.2.8 以降で修正済みです。

システムファームウェア 7.2.7.b において、富士通製 4Gbps ファイバチャネルカードを搭載しているシステムでは、システム電源オン後、F20CARD prom is unreadable or corrupted のメッセージが ILOM のイベントログに出力されて保守要求 LED が点灯することがあります。

Solaris OS は、正常に起動完了し、Solaris OS 上は、ファイバチャネルカードも正常に認識されます。

事象発生時の show faulty コマンドの例：

-> show faulty		
Target	Property	Value
-----+-----+-----		
/SP/faultmgmt/0	fru	/SYS
/SP/faultmgmt/0/ faults/0	timestamp	Apr 06 09:41:17
/SP/faultmgmt/0/ faults/0	sp_detected_fault	/SYS/MB/RISER0/PCIE3/F20CARD prom is unreadable or corrupted
->		

事象発生時の ILOM のイベントログの例：

15	Tue Apr 6 09:41:17 2010	Fault	Fault	critical
SP detected fault at time Tue Apr 6 09:41:17 2010. /SYS/MB/RISER0/PCIE3/F20CARD prom is unreadable or corrupted				

この事象が発生した際は、システム電源をオフにしたあと、ILOM をリセットしてください。リセット完了後、約 180 秒間あけてから、システム電源をオンにしてください。

回避方法：電源コード挿入後、または ILOM リセット完了後、約 180 秒間あけてから、システム電源を投入してください。

システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みの問題

表 A-10 システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6857271	SCC モジュールを交換すると、マザーボード上に保持しているデータの一部分が新規 SCC モジュールの情報に上書きされてしまうため、ILOM のネットワーク接続に失敗します。 詳細は、「SCC モジュールの交換後、ILOM のネットワーク接続に失敗する場合があります (CR 6857271)」(P. 69) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 SCC モジュール単体が故障した場合には、SCC モジュールだけでなくマザーボードも同時に交換してください。 交換後、バックアップした内容を復元してください。
6856163	ILOM ネットワークポートに LAN ケーブルを接続していない状態で、サービスプロセッサの初期化を実施すると、ILOM ファームウェアのシリアルコンソール画面に ILOM 内部プロセスの起動に失敗したことを示すエラーメッセージが表示され、ILOM の起動に失敗します。 詳細は、「サービスプロセッサの初期化実施時に、エラーメッセージが表示され ILOM の起動に失敗する場合があります (CR 6856163)」(P. 70) を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 1. 電源コードを取り外します。 2. ILOM ネットワークポートに LAN ケーブルを接続します。 3. 電源コードを接続します。 4. ILOM ネットワークポートがリンクアップしていることを確認します。
6854379	マザーボード交換後に、システム構成カード (SCC モジュール) を新しいマザーボードに乗せ換えたにも関わらず、/HOST/diag 配下のプロパティの値が引き継がれない場合があります。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 マザーボードを交換する前に、ILOM 設定内容のバックアップをしてください。交換後、バックアップした内容を復元してください。
6847308	ILOM 設定のバックアップにおいて、システム識別プロパティ (/SP system_identifier) の値が、デフォルト値 (none) であるとき、バックアップされたファイルにシステム説明プロパティ (/SP system_description) の値が格納されます。 誤って格納された例： <pre><entry> <property>/SP/system_identifier </property> <value>SPARC-Enterprise-T5440, ILOM v3.0.3.20.e, r46064</value> </entry></pre>	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 バックアップファイル内の "/SP system_identifier" のエントリを削除してください。

表 A-10 システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6823725	DNS クライアント機能のサーチパス (searchpath) プロパティは、一度設定すると、デフォルト値 (none) に戻すことができません。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。
6823516	DNS クライアント設定において、リトライ回数 (retries プロパティ) を "5" に設定することができません。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 リトライ回数には、"0" から "4" までの値を設定してください。
6816507	10GbE XAUI カード搭載後、電源コードを挿入したときに、10GbE XAUI カードの部品情報が ILOM に表示されません。なお、ILOM は 10GbE XAUI カードは認識しています。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 ILOM から 10GbE XAUI カードの部品情報を確認する場合、ホストの電源投入後に確認してください。
6737118	ファームウェアパッチに含まれるファームウェアダウンロードコマンド (sysfwdownload) の -u オプションを指定したとき、ファームウェアダウンロード完了後にシステム電源切断処理が自動的に開始されません。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 なし。 Solaris OS を停止し、システム電源を切断してください。
実施例 <pre># ./sysfwdownload -u Sun_System_Firmware-7_1_3_d-SPARC_Enterprise_T5120+T5220.pkg WARNING: Host will be powered down for automatic firmware update when download is completed. Do you want to continue(yes/no)? yes (7%)..... (15%)..... (23%)..... (31%)..... (39%).....</pre> Download completed successfully. # ← このあと、サーバの電源切断処理が開始されません。		

表 A-10 システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6718696	一部のメモリ構成で、prtdiag コマンドのメモリセグメント情報の出力が正しくない場合があります。特に、インタリーブ要因のバンクサイズおよびコンポーネントモジュールの列に誤った情報が含まれている場合があります。セグメントの数も正しくないことがあります。残念ながら、その情報が正しいか正しくないかを確認する方法はありません。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 システムに存在する DIMM のリストなど、prtdiag コマンドでは誤って報告される可能性がある FB-DIMM 情報を確認するには、showfru および showcomponent コマンドを使用してください。
なし	システムファームウェア 7.2.2.e において、role = Administrator のユーザーが ILOM Web インタフェースから snapshot を採取すると失敗します。	注 - システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済み。 ユーザーの role を "aucro" に変更し、再度 ILOM Web インタフェースから snapshot を採取してください。または、ILOM コマンドモードから snapshot を採取してください。

SCC モジュールの交換後、ILOM のネットワーク接続に失敗する場合がある（CR 6857271）

この問題は、システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みです。

SCC モジュールを交換すると、マザーボード上に保持しているデータの一部（*1）が新規 SCC モジュールの情報（*2）に上書きされてしまうため、ILOM のネットワーク接続に失敗します。

（*1）：ILOM ユーザー情報、ネットワーク設定情報、診断設定情報などの SCC モジュールに含まれているデータです。詳細は、各装置の ILOM 補足マニュアルを参照してください。

（*2）：この時点での情報は初期状態のため、設定は何も入っていません。

また、障害発生時は、ILOM のシリアルコンソール画面に以下のようなログが出力され（*）、ILOM の起動時に sccd の起動に失敗します。

障害時の ILOM シリアルコンソール出力例：

```
SUNSP-BEL07482AU login: root
Password:
Waiting for daemons to initialize...

Timed out waiting for daemons to start      <-- (*2)
sccd daemon has shutdown                     <-- (*2)

Integrated Lights Out Manager
```

```
Version 3.0.3.20.e
```

```
Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.  
Use is subject to license terms.
```

```
Warning: password is set to factory default.
```

```
->
```

SCC モジュール交換作業時には、サービスプロセッサの設定を事前にバックアップしてください。

回避方法： SCC モジュール単体が故障した場合には、SCC モジュールだけでなくマザーボードも同時に交換してください。

交換後、バックアップした内容を復元してください。

サービスプロセッサの初期化実施時に、エラーメッセージが表示され ILOM の起動に失敗する場合がある (CR 6856163)

この問題は、システムファームウェア 7.2.7.b 以降で修正済みです。

ILOM ネットワークポートに LAN ケーブルを接続していない状態で、サービスプロセッサの初期化 (*1) を実施すると、ILOM ファームウェアのシリアルコンソール画面に ILOM 内部プロセスの起動に失敗したことを示すエラーメッセージ (*2) が表示され、ILOM の起動に失敗します。

(*1) : サービスプロセッサの初期化とは、以下のオペレーションを指します。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> set /SP reset_to_defaults=all または factory  
-> reset /SP
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
SC> setdefaults  
SC> resetsc
```

障害時の現象例：

```
SUNSP-BEL07482AU login: root  
Password:  
Waiting for daemons to initialize...
```

```
Timed out waiting for daemons to start      <-- (*2)
sccd daemon has shutdown                     <-- (*2)

Integrated Lights Out Manager

Version 3.0.3.20.e

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

Warning: password is set to factory default.

->
```

回避方法： ILOM ネットワークポートに LAN ケーブルを接続した状態で、サービスプロセッサの初期化を実施してください。

なお、ILOM ネットワーク設定がされていなくても、ネットワークポートがリンクアップしていれば、サービスプロセッサの初期化を実施することはできます。

現象が発生した場合は、以下の手順で復旧してください。

- 1. 電源コードを取り外します。
- 2. ILOM ネットワークポートに LAN ケーブルを接続します。
- 3. 電源コードを接続します。
- 4. ILOM ネットワークポートがリンクアップしていることを確認します。

システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題

表 A-11 システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6835857	システム電源投入後、Solaris OS 起動時に "chip reset error!" のメッセージが出力されて、Solaris OS の起動に失敗することがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e で修正済み。 システム電源切断後、約 180 秒あけてから、システム電源オンを実施してください。
6794672	PCI ボックスの電源ユニットを活性交換したあと、交換した電源ユニットのファンが正常であるにも関わらず、ファン異常が誤って検出されま	注 - システムファームウェア 7.2.2.e で修正済み。 この現象が発生した場合、ILOM コマンド (set /SYS/IOX@XX/PSX clear_fault_action=true) を実行して、エラー情報をクリアしてください。

表 A-11 システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6782508	/SP/powermgmt/policy プロパティが無効になっています。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 /SP/powermgmt/policy に対して、以下のプロパティが利用できるようになりました。 - Performance システムは使用可能電力をすべて使用できます。 - Elastic システムの電力使用を現在の利用レベルに適合させます。たとえば、作業負荷が変動した場合でも、相対利用率が常に 70% で保持されるように、システムコンポーネントに供給する電力を増減します。 このプロパティは、論理ドメイン（LDoms）環境でのみ有効です。 論理ドメイン（LDoms）環境でない場合、または、論理ドメイン（LDoms）構成が factory-default の場合は、項目の設定自体はできませんが、電力消費の機能を活かすことはできません。
6781831	ILOM ファームウェアの NTP 機能を有効にしたあと、ホストの電源を投入したときに、Solaris OS 時刻が ILOM ファームウェアの補正された正しい時刻と比べて、ずれている場合があります。数十秒時刻が逆進したときの Solaris OS システムログの例 <pre>Nov 29 19:59:24 XXX genunix: [ID 904073 kern.notice] done Nov 29 19:58:23 XXX genunix: [ID 540533 kern.notice] ^MSunOS Release 5.10 Version Generic_137137-09 64-bit</pre>	注 - システムファームウェア 7.2.2.e で修正済み。 Solaris OS 時刻がずれた場合は、以下の手順で復旧してください。 1. システムをシャットダウンします。 # shutdown -y -i0 -g0 2. システムをシングルユーザーモードで起動します {0} ok boot -s 3. システムの時刻を設定します。 # date 設定時刻 4. システムをリブートします。 # shutdown -y -i6 -g0

表 A-11 システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6781815	ILOM リセット後、または本体装置の電源コード抜き差し後にサーバの電源を投入すると、OpenBoot PROM (OBP) の ok プロンプトでの、boot コマンドによる Solaris OS の起動に失敗する場合があります。以下に障害時の現象例を示します。 <pre>{0} ok boot ERROR: All device paths in boot-device have failed. (*) {0} ok</pre> OpenBoot PROM 環境変数 boot-device に設定されているデバイスパスが参照できず、Solaris OS の起動に失敗します。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 ILOM リセット後、または本体装置の電源コード抜き差し後にサーバの電源を投入する際には、OpenBoot PROM 環境変数をご確認ください。特に、OpenBoot PROM 環境変数 use-nvramrc? を true に設定している場合、Solaris OS を起動する際には、ok プロンプトにおいて、use-nvramrc? が true に設定されていることを確認してから、boot コマンドを実行してください。以下に例を示します。 <pre>{0} ok printenv use-nvramrc? use-nvramrc? = true {0} ok</pre>
6743343	警告ルールの設定で "Alert Type" と " イベント " により、Test Alert（警告のテスト送信）が生成されないことがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし。
6738989	ILOM Web インタフェースの SNMP タブに、engineid を設定する項目が表示されません。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 CLI の set /SP/services/snmp engineid=(value) コマンドで設定を行ってください。
6733632	ILOM の show -level all/SYS コマンド実行時、/SYS/MB/SP 以下の情報が出力されません。また、show -level all/SYS/MB の場合でも、/SYS/MB/SP 以下の情報は出力されません。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 show /SYS/MB/SP コマンドを使用してください。
6733492	以下のセンサー情報が、ILOM Web インタフェース（System Monitoring タブ→ Sensor Readings タブ）では表示されません。 • /SYS/PS*/I_AC_LIMIT • /SYS/PS*/I_DC_LIMIT • /SYS/MB/CPU*/CMP*/BR*/CH*/D*/PRSNT （対象：実装メモリー）	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 以下の CLI コマンドで確認してください。 • show /SYS/PS*/I_AC_LIMIT • show /SYS/PS*/I_DC_LIMIT • show /SYS/MB/CPU*/CMP*/BR*/CH*/D*/PRSNT （対象：実装メモリー）
6733109	delete コマンドのヘルプに force オプションの記載がありません。 -force または -f オプションを指定すると、ネームスペースのオブジェクトが強制的に削除されます。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし。

表 A-11 システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6722130	ILOM Web インタフェースの SSH Server タブにより、SSH Server の設定を Disabled から Enabled に変更しても、Disabled と表示されます。SSH Server の設定は有効になっています。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 ILOM Web インタフェースの「Refresh（リフレッシュ）」ボタンをクリックし、ページの情報を再表示してください。
6720583	ILOM Web インタフェースの "Active directory" により、Role を Administrator/Operator に変更しても、Role が空白で表示されます。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 ILOM にログインして、 /SP/clients/activedirectory の defaultrole の設定を確認してください。
6718841	Sun Explorer で ILOM 情報（Tx000）を採取できない場合があります。また、採取に失敗した場合、エラーになるまでに 30 分以上かかる場合があります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 ILOM 情報（Tx000）を別の方法で採取できます。詳細は、「 Sun Explorer で ILOM 情報（Tx000）を採取できない場合がある（CR 6718841） 」（P. 75）を参照してください。
6718696	メモリー縮退時の prtdiag コマンドの表示が異常となることがあります。 たとえば、4GB-DIMM1 枚で、5.33GB のように見えることがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし。
6694693	ILOM には Administrator と Operator の 2 つの権限しか存在しません。したがって、下記マニュアルにある ALOM CMT の userperm コマンドに関する記載は適切ではありません。 [c]、[u]、[a]、[r] のうちいずれかを設定した場合 Administrator 権限となり、何も設定しない場合 Operator 権限となります。 <Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル> userperm [username] [c][u][a][r]	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 なし。
6682500	1 つの LDoms ゲストドメインで大量の仮想ディスク I/O を実行するアプリケーションは、制御ドメインとゲストドメインの両方のリポートを必要とする状態でハングアップするおそれがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e で修正済み。 詳細は、「 制御ドメインとゲストドメインの両方のリポートが必要な状態でアプリケーションがハングアップする（CR 6682500） 」（P. 77）を参照してください。

表 A-11 システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6586305	初期値以外の論理ドメインを設定したあとで SP の <code>setdate</code> コマンド（ALOM 互換シェル）を使用すると、初期設定以外のドメインの日付が変更されることがあります。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 <code>setdate</code> コマンドを使用して SP の日付を設定する場合は、論理ドメイン設定を変更および保存する前に行います。 初期設定以外の論理ドメイン設定を保存したあとで <code>setdate</code> を使用した場合は、初期設定以外の各ドメインを Solaris OS に向けてブートし、日付を修正する必要があります（<code>date(1)</code> または <code>ntpdate(1M)</code> を参照）。
6579390	DIMM を無効にしたあとで、OpenBoot PROM バナーにメモリー量の減少が表示されません。	注 - システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済み。 ホストの電源がオンのときに ASR コマンドを使用していずれかの CPU リソースまたはメモリーリソースを手動で無効にした場合は、ホストの電源をオフにしてからもう一度オンにして、リソースの無効化を完了する必要があります。 電源をオフにしてからもう一度オンにしたあと、リソースは無効になり、正しい情報がバナーに表示されます。

Sun Explorer で ILOM 情報（Tx000）を採取できない場合がある（CR 6718841）

この問題は、システムファームウェア 7.2.2.e 以降で修正済みです。

Sun Explorer で ILOM 情報（Tx000）を採取できない場合があります。また、採取に失敗した場合、エラーになるまでに 30 分以上かかる場合があります。

回避方法： ILOM 情報（Tx000）を別の方法で採取できます。

1. 以下のようにオプションを指定します。

```
# /opt/SUNWexplo/bin/explorer -w !Tx000
```

2. ILOM のバージョンを確認します。

ILOM のバージョンによって、情報の採取方法が異なります。

- バージョンの確認方法

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> version  
SP firmware 3.0.3.20.c  
    ~ <-- ILOM3.0  
SP firmware build number: 45383  
SP firmware date: Tue Jun  2 15:38:58 PDT 2009  
SP filesystem version: 0.1.22  
  
->
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
SC> showsc version  
SP firmware version: 3.0.3.20.c  
    ~ <-- ILOM3.0  
  
SC>
```

3. ILOM 情報 (Tx000) を採取します。

■ ILOM3.0 以降の場合

ILOM3.0 概念ガイドにおける「システムの問題を診断するための SP データの収集」の項を参照し、SP データの情報を採取してください。

■ ILOM2.x 以前の場合

ILOM と ALOM の情報を採取し、Sun Explorer の出力結果とともに保守担当者に提供してください。

a. ILOM 上で以下の情報を採取します。

```
show /SP/users  
show /SP/users/admin  
show /HOST
```

b. ALOM 互換のユーザーを作成し、ALOM 上で以下の情報を採取します。

```
consolehistory -v  
showcomponent  
showdate  
showenvironment  
showfaults -v  
showfru  
showhost  
showkeyswitch  
showlogs -v -g 0 -p p
```

```
shownetwork
showplatform -v
showsc
showsc version -v
showusers
```

c. ILOM をリセットします。

```
-> reset /SP
Are you sure you want to reset /SP (y/n)? y
Performing hard reset on /SP
```

制御ドメインとゲストドメインの両方のリブートが必要な状態でアプリケーションがハングアップする (CR 6682500)

この問題は、システムファームウェア 7.2.2.e で修正済みです。

1 つの LDoms ゲストドメインで大量の仮想ディスク I/O を実行するアプリケーションは、制御ドメインとゲストドメインの両方のリブートを必要とする状態でハングアップするおそれがあります。

回避方法：

アプリケーションが 1 秒間に 30,000 を超える I/O 操作を実行する場合には、アプリケーションが仮想 I/O ではなく物理 I/O を実行するように本体装置を設定します。以下のいずれかを実行します。

- アプリケーションを制御ドメインで実行する。
- アプリケーションを実行するゲストドメインに、ディスクデバイスを含む root nexus をエクスポートする。

これらの回避方法のどちらも不可能な場合は、当社技術員に連絡して、この問題に適用できるパッチの有無を確認してください。

iostat(1) コマンドを使用して、システム全体の 1 秒当たりのディスク I/O 操作回数 (IOPS) を調べます。次に例を示します。

```
# iostat -x 1 30
```

これにより、1 秒間 1 デバイス当たり 1 行で 30 秒間出力されます（全体で 30 サンプル）。それぞれの間隔の 1 秒当たりの読取り回数（r/s）と 1 秒当たりの書き込み回数（w/s）の合計値からシステム全体の IOPS メトリックが得られます。次に例を示します。

extended device statistics					
device	r/s	w/s	kr/s	kw/s	
wait	actv	svc_t	%w	%b	
md2	0.0	2.0	0.0	12.0	
0.0	0.0	31.9	3	4	
.	.	.			

最初の間隔の値は無視します（これはシステムブート直後のメトリックを表します）。左から 2 番目と 3 番目の列（r/s、w/s）に注目してください。残りの 29 間隔の中から総 IOPS（全デバイスの r/s と w/s の合計）が最も大きい間隔を選択して、アプリケーションが 30,000 の IOPS しきい値に近づいているか（またはこれを超えている）かどうかを確認します。

システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済みの問題

表 A-12 システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済みの問題

CR ID	説明	回避方法
6731227	I/O ブランチを第一ドメイン（制御ドメイン）からゲストドメイン（I/O ドメイン）に割り当てな おすと、論理ドメインがハングアップする可能性 があります。 詳細は、「I/O ブランチを制御ドメインからゲス トドメインに割り当てなおすと、論理ドメインが ハングアップする（CR 6731227）」(P. 79) を参 照してください。	注 - システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正 済み。 詳細は、「I/O ブランチを制御ドメインからゲス トドメインに割り当てなおすと、論理ドメインが ハングアップする（CR 6731227）」(P. 79) を参 照してください。
6731027	特定の状況では、Solaris OS が停止したときに、 システムの電源が切断されなくなる場合があります。 このような場合には、システムコンソールま たは SC コンソールにメッセージが表示されず、 システムが応答していないように見えることがあ ります。	注 - システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正 済み。 次のいずれかの方法を使用して、システムの電源 を切ります。 • ILOM の stop/SYS コマンド • ALOM の poweroff コマンド

表 A-12 システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済みの問題（続き）

CR ID	説明	回避方法
6730610	特定の状況で T5440 サーバの電源を入れると、メモリー容量に関するエラーメッセージが表示される場合があります。 詳細は、「電源投入時にメモリーに関するエラーメッセージが表示される（CR 6730610）」（P. 81）を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済み。 詳細は、「電源投入時にメモリーに関するエラーメッセージが表示される（CR 6730610）」（P. 81）を参照してください。
6629474	ILOM ブラウザインタフェースの powercycle コマンドは、システムの正常な電源切断に必要な時間を十分確保しているとは思われないことがあります。	注 - システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済み。 この障害に対するパッチを入手できるかどうか確認してください。
6692478	ILOM ユーザーアカウントの先頭文字に使用禁止文字 ("#", "+", ":" など) を使用すると、ユーザー管理機能などの ILOM 機能に不具合が発生する場合があります。	注 - システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済み。 なし。 該当するユーザーアカウントを削除できる場合は、ユーザーアカウントを削除することにより、ILOM を復旧できます。削除できない場合には、ILOM の設定を工場出荷時のデフォルト設定に戻すことにより、ILOM を復旧できます。 手順および ILOM ユーザーアカウントに使用可能な文字の詳細は、『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。
6656116	DIMM モジュールが故障すると MCU が切り離され、メッセージがコンソールに出力されることがあります。 メッセージの例については、「DIMM モジュール故障時に MCU を切り離すことがある（CR 6656116）」（P. 83）を参照してください。	注 - システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済み。 故障した DIMM モジュールを特定して交換してください。
6596503	prtpicl コマンドを -v オプションとともに使用した場合の出力に、実際には存在しない CPU コアまたはストランドが表示され、OperationalStatus が enabled になっていることがあります。	注 - システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済み。 prtdiag コマンドまたは prtpicl -c cpu コマンドの出力を使用します。これらの出力には、正しい情報が表示されます。

I/O ブランチを制御ドメインからゲストドメインに割り当てなると、論理ドメインがハングアップする（CR 6731227）

この問題はシステムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済みです。

I/O ブランチを第一ドメイン（制御ドメイン）からゲストドメイン（I/O ドメイン）に割り当てなると、次の 2 つの状況で、論理ドメインがハングアップする可能性があります。

■ ケース 1

I/O ブランチを第一ドメインの論理ドメイン構成から削除して、同じ I/O ブランチを第一ドメインに再び追加すると、再起動時に I/O なしでシステムが起動するか、システムが OpenBoot PROM でハングアップするか、または I/O ブランチ全体とこれに関連する I/O デバイスが第一ドメインに存在しなくなる可能性があります。

たとえば、次の処理をここに示した順番で実行すると、第一ドメインが OpenBoot PROM でハングアップする場合があります。

1. **ldm rm-io pci@500 primary** (pci@500 を構成から削除)
2. **ldm rm-io pci@600 primary** (pci@600 を構成から削除)
3. **ldm add-io pci@500 primary** (pci@500 を構成に再び追加)
4. **ldm add-config config_name** (新しい構成を SP に保存)
5. 正常な停止および電源の再投入

■ ケース 2

I/O ブランチを番号順以外の順番でゲストドメインに割り当てた場合、1 つ以上のゲストドメインが起動できなくなります。

たとえば、次の処理をここに示した順番で実行すると、1 つ以上のゲストドメインが起動したときにハングアップする場合があります。

1. **ldm add-io pci@600 guestA**
2. **ldm add-io pci@500 guestB**
3. **ldm add-io pci@700 guestC**

回避方法：どちらの状況でも、次のガイドラインに従って回避できます。

■ ケース 1

I/O ブランチを第一ドメインから削除して、そのあとすぐに第一ドメインに再び追加しないでください。

■ ケース 2

I/O ブランチは必ず番号順にゲストドメインに追加するようにしてください。

例 #1: 第一ドメインが pci@400（ボード上のディスク /USB/DVD とスロット PCIe0 および PCIe1）を使用していて、pci@500、pci@600、および pci@700 を 3 つのゲストに割り当てる場合：

1. **ldm add-io pci@500 guestB**

2. **ldm add-io pci@600 guestA**
3. **ldm add-io pci@700 guestC**

例 #2: 第一ドメインが pci@500（ボード上の 1 Gbps および 10 Gbps ネットワーク、スロット PCIE4、PCIE5、XAU10、XAU11）を使用していて、pci@400、pci@600、および pci@700 を 3 つのゲストに割り当てる場合：

1. **ldm add-io pci@400 guestB**
2. **ldm add-io pci@600 guestA**
3. **ldm add-io pci@700 guestC**

このようなハングアップが発生した場合は、以前の動作していた構成か、出荷時のデフォルト構成のいずれかを使用してシステムを起動すると、回復できます。サービスプロセッサ（SP）の ALOM CLI で次の一連のコマンドを実行することによって、以前の動作していた構成か、出荷時のデフォルト構成でシステムを起動できます。

1. **sc> bootmode config="name_of_config"**
2. **sc> poweron**
3. **sc> poweroff**

name_of_config は、サービスプロセッサに保存されていた、動作していた構成です。このような構成がサービスプロセッサに存在しない場合は、構成名に「factory-default」を使用してください。

注 - 上記の手順で「factory-default」を使用した場合には、そのあとですべてのゲストドメインおよび第一ドメインを再構成する必要があります。

電源投入時にメモリーに関するエラーメッセージが表示される（CR 6730610）

この問題はシステムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済みです。

特定の状況で T5440 サーバの電源を入れると、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
Chassis | major: Jul 27 16:40:17 ERROR: dt_allocprop: prop == NULL:
Not enough memory to expand MD for new property fwd
Chassis | major: Jul 27 16:40:17 ERROR: dt_allocnode: Not enough
memory to expand MD for new node mblock
Chassis | critical: Jul 27 16:41:55 FATAL: The Service Processor
software has taken a FATAL configuration error,
```

```
Chassis | critical: the HOST Process cannot be started.  
Chassis | critical: Please examine the logs to determine the reason  
for failure and then  
Chassis | critical: reset the Service Processor
```

このエラーは、異なる CMP およびメモリーモジュールの間でメモリー量に大きな相違がある場合に発生します。たとえば、CMP0+MEM0 のメモリーが最大の 128G バイトになっても、CMP1+MEM1 のメモリーが 16G バイトしかない場合に、このエラーが発生する可能性があります。この状態は、2 つの異なる状況で発生する場合があります。それぞれの状況によって、回復手順が用意されています。

- ケース 1 - 64 枚の 8G バイト FB-DIMM を搭載した T5440 サーバで複数の FB-DIMM に障害が発生していることを POST が検出した場合

POST が FB-DIMM をオフラインにした場合、その FB-DIMM をすぐに交換する必要があります。障害のある FB-DIMM をすぐに交換できない場合、または交換が望ましくない場合には、もう一方の CMP/ メモリーモジュールの対応するメモリーブランチ上にある対応する FBDIMM を無効にして、連続的なメモリー構成を保証する必要があります。

次のいずれかを入力します。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> set /SYS/component component_state=disabled
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
sc> disablecomponent asr-key
```

次のいずれかのコマンドを入力して、有効または無効にしたデバイスのリストを表示します。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> show components
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
sc> showcomponent
```

無効になっている FM-DIMM デバイスごとに、もう一方の CMP/ メモリーモジュールユニットに関連付けられている、対応する FB_DIMM を無効にします。たとえば、次のデバイスが無効になっているとします。

```
/SYS/MB/MEM0/CMP0/BR0/CH0/D1
```

この場合は、次のデバイスをさらに無効にします。

/SYS/MB/MEM1/CMP1/BR0/CH0/D1

/SYS/MB/MEM2/CMP2/BR0/CH0/D1

/SYS/MB/MEM3/CMP3/BR0/CH0/D1

- ケース 2 - T5440 サーバに新しいFBDIMMを追加し、CMP/メモリーモジュールペアの1つにもう一方のモジュールに比べて著しく大きなメモリーを構成した場合
CMP/メモリーモジュールにまたがってFB-DIMMを再度割り当てて、それぞれのCMP/メモリーモジュールペアでFB-DIMMの総数と種類が同じになるようにしてください。

DIMM モジュール故障時に MCU を切り離すことがある (CR 6656116)

この問題は、システムファームウェア 7.1.8.a 以降で修正済みです。

DIMM モジュールが故障すると MCU が切り離され、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。

メッセージ表示例：

```
Jun 04 06:11:22: Chassis |major   : "Jun  4 06:11:22 ERROR: MCU2
initialization failed: DRAM init, disabled"
Jun 04 06:11:23: Fault   |critical: "SP detected fault at time Wed
Jun  4 06:11:23 2008. /SYS/MB/CMP0/MCU2 Forced fail (DRAM init)"
Jun 04 06:11:24: Chassis |major   : "Jun  4 06:11:24 ERROR:
MB/CMP0/MCU3 unused because MB/CMP0/MCU2 is not configured"
Jun 04 06:11:24: Chassis |major   : "Jun  4 06:11:24 ERROR:
MB/CMP0/L2_BANK4, MB/CMP0/L2_BANK5 unused because MB/CMP0/MCU2 is
not configured"
Jun 04 06:11:24: Chassis |major   : "Jun  4 06:11:24 ERROR:
MB/CMP0/L2_BANK6, MB/CMP0/L2_BANK7 unused because MB/CMP0/MCU3 is
not configured"
Jun 04 06:11:24: Chassis |major   : "Jun  4 06:11:24 ERROR: Degraded
configuration: system operating at reduced capacity"
Jun 04 06:11:24: Chassis |major   : "Jun  4 06:11:24 ERROR: System
DRAM Available: 002048 MB"
Jun 04 06:11:23: Fault   |critical: "SP detected fault at time Wed
Jun  4 06:11:23 2008. /SYS/MB/CMP0/MCU2 Forced fail (DRAM init)"
```

showfaults コマンド表示例：

```
Last POST Run: Wed Jun  4 06:14:17 2008
Post Status: Passed all devices
  ID FRU              Fault
  1 /SYS/MB          SP detected fault: /SYS/MB/CMP0/MCU2 Forced fail
(DRAM init)
```

回避方法： 故障した DIMM モジュールを特定して交換してください。

付録 B

修正予定がない軽微な事象

この付録では、SPARC Enterprise T5440 サーバに関する修正予定のない軽微な事象について説明します。

ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する事象

表 B-1 に、ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象の一覧を示します。

表 B-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象

CR ID	説明	回避方法
6952927	システムファームウェア 7.2.8 以降が適用されている環境で、ILOM 設定の復元を実施後、7.2.8 未満にダウングレードすると、過去の ILOM イベントログの一部のみ表示されることがあります。 詳細は、「 システムファームウェアのダウングレード後、過去の ILOM イベントログの一部のみが表示される場合がある (CR 6952927) 」(P. 89) を参照してください。	なし。 新規に発生した ILOM のイベントログは正常に採取されます。
6837115	ILOM Web インタフェースの "Alert Management" により、Level: minor、Type: IPMI PET と設定した状態から Type を SNMP Trap に変更すると、Level の設定が disable に変わってしまいます。再度 Level を設定しなおしてください。	なし。

表 B-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象（続き）

CR ID	説明	回避方法
6835854 6779753	ILOM の NET-MGT ポートに LAN ケーブルが接続されていない、かつネットワークゲートウェイ設定を行わない場合、ILOM のネットワーク設定を行うことができません。 出力例については、「 ILOM のネットワーク設定を行うことができない場合がある（CR 6835854、6779753） 」（P. 90）を参照してください。	なし。 ILOM の NET-MGT ポートに LAN ケーブルを接続してから、ネットワークの設定を行ってください。
6830397	ILOM 3.0 において、/HOST/diag mode プロパティ、または、ALOM CMT 互換シェルの diag_mode プロパティに "service" を設定することはできません。 設定した場合、"unknown" と表示されます。	なし。 以下の設定により、"service" の設定と同等のモードで POST 診断を行うことができます。 /HOST/diag mode = normal /HOST diag level = max /HOST verbosity = max
6772876	状況によっては、障害を取り除く前に使用不可の CMP モジュールを交換すると、交換後の CMP モジュールがシステムに認識されない場合があります。 たとえば、CMP1 を交換したあとで ALOM 互換シェルの showcomponent コマンドを実行した場合、以下のデバイスは表示されません。 /SYS/MB/CPU1/CMP1/P0 /SYS/MB/CPU1/CMP1/P1 /SYS/MB/CPU1/CMP1/P2 /SYS/MB/CPU1/CMP1/P3 /SYS/MB/CPU1/CMP1/P4 /SYS/MB/CPU1/CMP1/P5	故障した CMP モジュールを交換したあとで、サービスプロセッサをリセットします。次のように入力します。 sc> resetsc
6752910	ILOM からホストの電源投入指示を実施したときに、POST が開始されず、Solaris OS ブート処理または、OpenBoot PROM の ok プロンプトに移行しないことがあります。 ILOM をリセットすることにより復旧可能です。	ホストの電源切断後、次に電源を投入する場合は、3 分以上の間隔をあけるようにしてください。 詳細は、「 ILOM からホストの電源投入指示を実行したときに、POST が開始されず、OS ブート処理または、ok プロンプトに移行しないことがある（CR 6752910） 」（P. 91）を参照してください。

表 B-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象（続き）

CR ID	説明	回避方法
6739633	ホストの電源がオフの状態で、ILOM Web インタフェース（System Information タブ→ Components タブ）より選択した部品に対して、prepare_to_remove を実行するとラジオボタンが消えてしまうことがあります。該当部品の Ready to Remove Status は NotReady から Ready (No Power) に変わりますが、ラジオボタンが消えており、Return to Service を行うことができません。	CLI より以下のように設定を行ってください。 • set /SYS/（該当部品を指定） return_to_service_action=true
6739602	/SP/clients/activedirectory の logdetail プロパティを none 以外に設定すると、Active Directory を無効（state=disabled）に設定しても、以下の Active Directory の認証失敗メッセージが表示されることがあります。 sc> ActDir critical: (ActDir) authentication status: auth-ERROR	Active Directory を無効にしている場合は、メッセージを無視してください。
6738992	Internet Explorer を使用して、ILOM Web インタフェースの Component タブを開くと、以下のような警告メッセージが表示されることがあります。 ----- このページのスクリプトが Internet Explorer の実行速度を遅くしています。 スクリプトを実行し続けると、コンピュータが反応しなくなる可能性があります。 スクリプトを中断しますか？ ----- * 実際のメッセージとは異なる場合があります。 システムファームウェア 7.2.2.e 以降では、Components タブの「Show Data in a Single Page」を選択するか、「Show Table View Preferences」で、Rows Per Page に設定した値が大きすぎると、該当のメッセージが表示されることがあります。	「はい」を選択すると、一部コンポーネントが表示されません。 「いいえ」を選択し、すべてを表示させてください。 システムファームウェアが 7.2.2.e 以降の場合は、Components タブの Rows Per Page の値を小さくするか、「Show Data in Multiple Pages」を選択してください。
6738510	特定コマンド（create, delete, exit, load, reset, set, start, stop, version）に -t オプションを指定すると、ILOM CLI から強制ログアウトすることがあります。	なし。

表 B-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象（続き）

CR ID	説明	回避方法
6726663	ILOM モードおよび ILOM Web において、システム電源オンのときに時刻の設定ができてしまいます。	ILOM モードの場合、システム電源オンのときは、以下のプロパティにおいて、時刻を設定したり、NTP 設定を有効にしたりしないでください。 <pre> -> show /SP/clock /SP/clock Targets: Properties: datetime = Wed Dec 3 06:22:48 2008 usentpserver = disabled Commands: cd set show -> </pre>
6723410	サービスプロセッサにログインし、コマンドを実行し、ログアウトすることを連続で繰り返し実行すると、ログアウトに失敗することがあります。	問題が発生した場合は、アクセスしているクライアント側で、ログインセッションを切断してください。
6682176	特定の状況で、ホストの電源を再投入する SP コマンドが期待どおりに機能しない場合があります。	サーバの電源の再投入に何度も失敗した場合は、システムコントローラ（SC）をリセットすることで、このような状況から回復できます。 サービスプロセッサをリセットすると、ホストの電源を再投入するコマンドが期待どおりに機能します。
6660556	BUI を使用してコンポーネントを有効または無効にすると、/SYS および /SYS/MB の障害状態が、実際の状態よりも 1 画面遅れて更新されます。	この障害に対するパッチを入手できるかどうか確認してください。
6659980	Solaris OS を再起動したとき、OpenBoot PROM が "ERROR: Unable to disown USB port 3" のエラーメッセージを出力することがあります。 詳細は、「Solaris OS を再起動したとき、OpenBoot PROM がエラーメッセージを出力することがある（CR 6659980）」（P. 92）を参照してください。	なし。 システムおよび USB デバイスに影響はないため、このメッセージは無視してください。

表 B-1 ファームウェアおよび一般ソフトウェアに関する軽微な事象（続き）

CR ID	説明	回避方法															
6587380	Solaris OS の <code>prtdiag -v</code> コマンドを発行すると、Voltage Indicators 見出しの下に、電圧を示すインジケーターではなく、センサーインジケーターが表示されます。該当するセンサーインジケーターには次のものがあります。 <table> <tr> <td>SYS/MB</td><td>I_USB0</td><td>ok</td></tr> <tr> <td>SYS/MB</td><td>I_USB1</td><td>ok</td></tr> <tr> <td>SYS/PSx</td><td>CUR_FAULT</td><td>ok</td></tr> <tr> <td>SYS/PSx</td><td>FAN_FAULT</td><td>ok</td></tr> <tr> <td>SYS/PSx</td><td>TEMP_FAULT</td><td>ok</td></tr> </table> ただし、Condition 列で報告される情報が正確なものであり、コンポーネントの現在の状態を表しています。	SYS/MB	I_USB0	ok	SYS/MB	I_USB1	ok	SYS/PSx	CUR_FAULT	ok	SYS/PSx	FAN_FAULT	ok	SYS/PSx	TEMP_FAULT	ok	Condition 列を使用して、FRU の状態を評価してください。
SYS/MB	I_USB0	ok															
SYS/MB	I_USB1	ok															
SYS/PSx	CUR_FAULT	ok															
SYS/PSx	FAN_FAULT	ok															
SYS/PSx	TEMP_FAULT	ok															

システムファームウェアのダウングレード後、過去の ILOM イベントログの一部のみが表示される場合がある（CR 6952927）

システムファームウェア 7.2.8 以降が適用されている環境で、ILOM 設定の復元を実施後、7.2.8 未満にダウングレードすると、過去の ILOM イベントログの一部のみ表示されることがあります。

イベントログ例：

本来は ID 4461 より古いログが存在しますが、それらが表示されません。

```
-> show /SP/logs/event/list
```

```
/SP/logs/event/list
```

```
Targets:
```

```
Properties:
```

```
Commands:
```

```
cd
```

```
show
```

ID	Date/Time	Class	Type	Severity
-----	-----	-----	-----	-----
4463	Mon Apr 5 06:51:54 2010	Audit	Log	minor
	root : Open Session : object = /session/type : value = shell : success			
4462	Mon Apr 5 06:39:11 2010	Audit	Log	major
	Upgrade Succeeded			

```
4461      Mon Apr  5 06:32:18 2010      Audit      Log      minor
      root : Set : object = /config/load_uri : value =
ftp://root:*****@192.9.2
      00.254/export/LOG/ilom_backup/LE4-3_728.config : success
```

回避方法：なし。発生した ILOM のイベントログは正常に採取されます。

ILOM のネットワーク設定を行うことができない場合がある（CR 6835854、6779753）

ILOM の NET-MGT ポートに LAN ケーブルが接続されていない、かつネットワークゲートウェイ設定を行わない場合、ILOM のネットワーク設定を行うことができません。

設定不可時の出力例：

```
-> set /SP/network/ pendingipdiscovery=static
Set 'pendingipdiscovery' to 'static'

-> set /SP/network/ pendingipaddress=192.9.200.33
Set 'pendingipaddress' to '192.9.200.33'

-> set /SP/network/ pendingipnetmask=255.255.255.0
Set 'pendingipnetmask' to '255.255.255.0'

-> set /SP/network/ commitpending=true
set: Unable to get network management property

->
-> show /SP/network/ -d properties
/SP/network
Properties:
  commitpending = (Cannot show property)
  dhcp_server_ip = none
  ipaddress = (none)
  ipdiscovery = (none)
  ipgateway = (none)
  ipnetmask = (none)
  macaddress = (none)
  pendingipaddress = 192.9.200.33
  pendingipdiscovery = static
  pendingipgateway = (none)
  pendingipnetmask = 255.255.255.0
  state = disabled
```

回避方法：なし。ILOM の NET-MGT ポートに LAN ケーブルを接続してから、ネットワークの設定を行ってください。

ILOM からホストの電源投入指示を実行したときに、POST が開始されず、OS ブート処理または、ok プロンプトに移行しないことがある（CR 6752910）

ILOM からホストの電源投入指示を実行したときに、POST が開始されず、Solaris OS ブート処理または、OpenBoot PROM の ok プロンプトに移行しない場合があります。

[ILOM コマンドモードの場合]

```
-> start /SYS
-> start /SP/console
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
```

[ALOM CMT 互換シェルの場合]

```
SC> poweron
SC> console
Enter #. to return to ALOM.
```

OS コンソールには、何も表示されません。エスケープ文字 "#." を入力すると、ILOM プロンプトに復帰します。Domain Status の内容は限定されません。また、イベントログには電源投入のログがされない場合があります。

showplatform コマンド、showlogs コマンドのドメイン状態参照例：

```
SC> showplatform
SUNW,SPARC-Enterprise-T5440

Domain Status
-----
S0      Powered off *Domain Status : "Powered on", "Powered off", "OpenBoot
initializing", "Unknown" など
SC>

SC> showlogs -p p

Log entries since Sep 29 12:45:39
-----
Sep 29 12:45:39: Chassis |major      : "Host has been powered on"
```

```

Sep 29 12:49:28: Chassis |major   : "Host is running"
Sep 29 12:49:43: Chassis |critical: "Host has been powered off"
Sep 29 12:50:47: Chassis |major   : "Host has been powered on"
Sep 29 12:54:35: Chassis |major   : "Host is running"
Sep 29 12:54:51: Chassis |critical: "Host has been powered off" * このあとに "Host
has been powered on" のログがない。
sc>

```

Solaris OS を再起動したとき、OpenBoot PROM がエラーメッセージを出力することがある（CR 6659980）

Solaris OS を再起動したとき、OpenBoot PROM が "ERROR: Unable to disown USB port 3" のエラーメッセージを出力することがあります。

現象例：

```

# shutdown -i6 -g0 -y

Shutdown started.      Tue Apr 13 16:10:09 JST 2010

Changing to init state 6 - please wait
Broadcast Message from root (console) on xxxxxxxx Tue Apr 13 16:10:09...
THE SYSTEM marambal IS BEING SHUT DOWN NOW ! ! !
Log off now or risk your files being damaged

# svc.startd: The system is coming down.  Please wait.
svc.startd: 101 system services are now being stopped.
Apr 13 16:10:23 xxxxxxxx syslogd: going down on signal 15
svc.startd: The system is down.
syncing file systems... done
rebooting...
Resetting...
ERROR: Unable to disown USB port 3          <--

Txxxx, No Keyboard
Copyright 2010 Sun Microsystems, Inc.  All rights reserved.
OpenBoot 4.30.7, 7968 MB memory available, Serial #XXXXXXX.
Ethernet address XX:XX:XX:XX:XX:XX, Host ID: XXXXXXXX.

Boot device: disk  File and args:
SunOS Release 5.10 Version Generic_141444-09 64-bit

```

```
Copyright 1983-2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.  
Use is subject to license terms.  
Hostname: xxxxxxxx  
/dev/rdisk/clt0d0s7 is clean  
Reading ZFS config: done.  
  
xxxxxxx console login:
```

回避方法：なし。システムおよびUSB デバイスに影響はないため、このメッセージは無視してください。

